

平成 23 年度
富良野市教育行政評価報告書

教育委員会事務事業点検・評価
学 校 第 三 者 評 価

平成 24 年 8 月

富 良 野 市 教 育 委 員 会

目 次

点検・評価の概要	
1、教育委員会事務事業点検・評価	1
2、学校第三者評価	1
3、点検・評価の手法及び公表	1
教育委員会の活動点検・評価	
1、教育委員会の活動の一覧	5
2、教育委員会議	11
3、教育委員会議の評価	12
平成 23 年度教育委員会事務事業点検・評価	
事務事業点検・評価結果一覧	13
学校教育課所管事務事業	15
社会教育課所管事務事業	37
生涯学習センター所管事務事業	58
図書館所管事務事業	61
富良野学校給食センター所管事務事業	65
平成 23 年度学校第三者評価	69
教育行政評価委員会の開催について	
1、教育行政評価委員会	75
2、点検・評価に基づいた意見	76
資料 1 富良野市教育行政評価委員会設置要綱	79
資料 2 教育行政評価委員名簿	80
資料 3 地方教育行政の組織及び運営に関する法律	80
資料 4 平成 23 年度 富良野市教育行政執行方針	81
資料 5 平成 23 年度 富良野市教育推進の重点	89

点検・評価の概要

1、教育委員会事務事業点検・評価

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(以下「地教行法」という。)の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会の責任体制の明確化を図るため、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果を公表することとなりました。

このため、富良野市教育委員会では、地教行法第27条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進と行政評価の透明性を図り、市民への説明責任を果たすことを目的として、教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価いたしました。

2、学校第三者評価

学校評価については、平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の一部改正が行われ、学校自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者(市教育委員会)への報告が義務化されました。これを受け、富良野市教育委員会では平成19年度から試行的に学校評価に取り組み、平成20年度から本格実施をしています。

学校第三者評価については、平成20年に文部科学省より示された「学校評価ガイドライン」に基づき、当事者や関係者ではなく「学識経験のある知見を有する第三者」による学校評価のために、平成23年度の学校第三者評価は教育行政評価委員会において実施しました。

3、点検・評価の手法及び公表

1) 教育委員会事務事業点検・評価報告

平成23年度に実施した教育委員会の主な事務事業の実績を「事務事業点検評価シート」にまとめ、それぞれの目標に照らし合わせた成果を基に必要性・有効性・効果性などを各分野別において点検し、今後の課題や改善策をまとめ、担当課により次の基準で達成度・効果度の評価を行いました。

達成度の評価

事業の進捗状況として、当該年度において事業がどの程度まで実施できたのかを評価する。

< 評価基準 >

- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。

効果度の評価

事業の実践により、当該年度に得られた効果がどの程度なのかを評価する。

< 評価基準 >

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。

2) 学校第三者評価

学校第三者評価は、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、保護者や地域住民等の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて実施するもので、単に学校に点数を付けたり、格付けしたり、監視したり、教諭を評価するための仕組みではなく、より良い「開かれた学校」づくりを目指すものであります。

評価の方法は、「学校評価ガイドライン」で示されている評価項目を重点化し、平成 23 年度に富良野市学校教育指導委員会より答申のあった 16 項目 25 観点について各学校で自己評価をし、これを受けて、教育行政評価委員が「学校自己評価」や「学校関係者評価」を参考に、学校訪問並びに学校関係者との意見交換を実施し学校第三者評価を行いました。

3) 公表

公表は議会、市広報紙・市ホームページに掲載するとともに、市の主な公共施設でも報告書を閲覧できるようにいたします。

4) 評価結果

平成 23 年度の事務事業点検・評価の結果について、評価基準 A ~ D の 4 段階で集計を行いました。

事務事業評価

第 1 表 事務事業評価【達成度】

	A	B	C	D
件数	23	31	1	0
構成比(%)	41.8	56.4	1.8	0

評価基準 A : 実践が進み成果を上げている。

B : 実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。

C : 実践に努めているが、達成度は低いと判断される。

D : ほとんど(全く)実践されず、努力を要する。

第 2 表 事務事業評価【効果度】

	A	B	C	D
件数	39	15	1	0
構成比(%)	70.9	27.3	1.8	0

評価基準 A : 期待どおりの効果が得られたと判断される。

B : やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。

C : 期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。

D : 期待した効果がほとんど(全く)得られなかったと判断される。

教育委員会の活動点検・評価

平成 23 年度の教育委員会の活動点検・評価については、「教育委員会会議」「学校訪問」などの項目に分け、教育委員会独自による点検を行いました。

1、教育委員会の活動の一覧

教育委員会会議については、定例会及び臨時会があり、偶数月に定例会を開催し、必要に応じ臨時会を開催しました。また、毎月1回委員協議会を開催し、教育に関する様々な案件について協議しました。定例会については、開催予定や傍聴、報道機関への案内、過去の会議の内容等を富良野市ホームページに掲載しています。

1) 平成 23 年度教育委員会会議実施状況

(1) 開催回数

定例会：6回（原則として偶数月第3水曜日）

臨時会：7回（随時）

委員協議会：14回（原則として毎月第3水曜日）

(2) 付議件数

内 容	件 数
規則等に関する事	6
議会の議決を経るべき議案に関する事	3
人事に関する事	1
教科用図書採択に関する事	1
委員の委嘱等に関する事	1 1
その他	9
計	3 1

2) 教育委員会議の開催状況

回	開催日	開 催 内 容
第 2 回 定例会	4 月 27 日 (水)	1) 富良野市生涯学習推進アドバイザー規則の一部改正について 2) 富良野市立学校施設利用に係る学校開放主事及び学校開放管理指導員の委嘱について 3) 富良野市スクールガードリーダーの委嘱について

第 6 回 臨時会	5 月 20 日 (金)	1) 教育行政評価委員の委嘱について 2) 富良野市学校教育指導委員の委嘱について 3) 富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について 4) 富良野市社会教育委員の委嘱について 5) 富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について 6) 富良野市学社融合推進委員の委嘱について 7) 富良野演劇工場運営委員会委員の委嘱について
第 7 回 臨時会	6 月 15 日 (水)	1) 富良野市教育委員会委員長の選挙について 2) 富良野市教育委員会委員長職務代理者の指定について
第 3 回 定例会	6 月 30 日 (木)	1) 富良野市学校評議員運営規程の一部改正について
第 8 回 臨時会	8 月 10 日 (水)	1) 平成 24 年度教科用図書採択について
第 4 回 定例会	8 月 22 日 (月)	1) 平成 22 年度富良野市教育行政評価(事務事業点検・評価、学校第三者評価)報告書の提出について 2) 富良野市青少年補導センター設置条例の一部を改正する条例について
第 5 回 定例会	10 月 20 日 (木)	1) 富良野市青少年活動災害見舞交付金交付規程の廃止について 2) 富良野市青少年表彰規則に基づく平成 23 年度表彰者の決定について
第 9 回 臨時会	11 月 23 日 (水)	1) 富良野市立学校管理規則の一部改正について
第 6 回 定例会	12 月 22 日 (木)	1) 富良野演劇工場運営委員会委員の委嘱について 2) 会計検査院による会計検査の結果について
第 1 回 臨時会	1 月 27 日 (金)	1) 富良野市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について 2) 富良野市体育指導委員規則の一部改正について
第 1 回 定例会	2 月 10 日 (金)	1) 平成 24 年度教育行政執行方針について 2) 平成 24 年度富良野市社会教育推進計画について
第 2 回 臨時会	3 月 14 日 (水)	1) 教職員人事の内申について 2) 平成 24 年度富良野市学校医等の委嘱について 3) 富良野広域連合規約の変更について 4) 平成 24 年度全国学力・学習状況調査への参加について 5) 富良野市教育委員会非常勤嘱託職員取扱規則の制定について
第 3 回 臨時会	3 月 26 日 (月)	1) 平成 24 年度富良野市育英基金・戸倉育英基金育英生の選考について

3) 教育委員会委員協議会の開催状況

回	開催日	開催内容
第5回協議会	4月27日 (水)	協議1) 富良野市生涯学習推進アドバイザー規則の一部改正について 協議2) 富良野市立学校施設利用に係る学校開放主事及び学校開放管理指導員の委嘱について 協議3) 富良野市スクールガードリーダーの委嘱について 報告1) 富良野市子どもの読書推進事業(ブックスタート事業)実施状況報告について 報告2) 富良野小学校屋内運動場改築事業について 報告3) 被災された児童生徒の受け入れについて 報告4) 富良野東中学校校舎耐震改修、屋内運動場改築について
第6回協議会	5月20日 (金)	協議1) 教育行政評価委員の委嘱について 協議2) 富良野市学校教育指導委員の委嘱について 協議3) 富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について 協議4) 富良野市社会教育委員の委嘱について 協議5) 富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について 協議6) 富良野市学社融合推進委員の委嘱について 協議7) 富良野演劇工場運営委員会委員の委嘱について 報告1) 富良野東中学校屋内運動場体力度調査について 報告2) 「夢を育む」(児島委員長)の北海道通信への掲載について
第7回協議会	6月30日 (木)	協議1) 富良野市学校評議員運営規程の一部改正について 報告1) 平成23年度6月補正予算について 報告2) 朝日ヶ丘総合公園多目的運動広場整備計画について 報告3) 少年野球国際交流事業について
第8回協議会	7月21日 (木)	報告1) 放課後子ども教室について 報告2) 学校支援ボランティアについて 報告3) 富良野市スポーツ少年団運動適正テスト結果について 報告4) 平成23年度市内小学校ブックフェスティバルについて
第9回協議会	8月22日 (月)	協議1) 平成22年度富良野市教育行政評価(事務事業点検・評価、学校第三者評価)報告書の提出について 協議2) 富良野市青少年補導センター設置条例の一部を

		<p>改正する条例について</p> <p>報告 1) 平成 23 年度全国学力・学習状況調査の実施について</p> <p>報告 2) 少年野球国際交流事業実施報告について</p> <p>報告 3) 富良野小学校屋内運動場改築工事の工事契約について</p>
第 10 回 協議会	9 月 21 日 (水)	<p>報告 1) 上川管内高齢者学びの集い開催報告について</p> <p>報告 2) 富良野市子ども読書推進フォーラム開催報告について</p> <p>報告 3) 第 3 回富良野市議会定例会について</p> <p>報告 4) 市内学校における窃盗事件・落書き事件について</p> <p>報告 5) いじめメッセージ配布</p>
第 11 回 協議会	10 月 20 日 (木)	<p>協議 1) 富良野市青少年活動災害見舞交付金交付規程の廃止について</p> <p>協議 2) 富良野市青少年表彰規則に基づく平成 23 年度表彰者の決定について</p> <p>報告 1) 子どもスキー技術向上支援事業に係る補正予算について</p> <p>報告 2) 富良野小・東小ブックフェスティバル実績報告について</p>
第 12 回 協議会	11 月 23 日 (水)	<p>協議 1) 富良野市立学校管理規則の一部改正について</p> <p>報告 1) こども未来づくりフォーラムの開催について</p> <p>報告 2) 平成 23 年度優れた地域による学校支援活動推進に関わる文部科学省大臣表彰報告について</p> <p>報告 3) 富良野広域連合議会報告について</p> <p>報告 4) 教職員の服務規律等の実態に関する調査について</p>
第 13 回 協議会	12 月 22 日 (木)	<p>協議 1) 富良野演劇工場運営委員会委員の委嘱について</p> <p>協議 2) 会計検査院による会計検査の結果について</p> <p>報告 1) 第 4 回富良野市議会定例会について</p> <p>報告 2) こども未来づくりフォーラムの開催報告について</p> <p>報告 3) 市内小学校ブックフェスティバル事業実績について</p> <p>報告 4) 富良野スキー場リフト無料券の申請状況について</p>
第 1 回 協議会	1 月 27 日 (金)	<p>協議 1) 富良野市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について</p> <p>協議 2) 富良野市体育指導委員規則の一部改正について</p>

第2回協議会	2月10日 (金)	協議1)平成24年度教育行政執行方針について 協議2)平成24年度富良野市社会教育推進計画について
第3回協議会	2月17日 (金)	報告1)平成23年度全国学力・学習状況調査の結果について
第4回協議会	3月14日 (水)	協議1)教職員人事の内申について 協議2)平成24年度富良野市学校医等の委嘱について 協議3)富良野広域連合規約の変更について 協議4)平成24年度全国学力・学習状況調査への参加について 協議5)富良野市教育委員会非常勤嘱託職員取扱規則の制定について
第5回協議会	3月26日 (月)	協議1)平成24年度富良野市育英基金・戸倉育英基金育英生の選考について 報告1)第1回富良野市議会定例会について

4) 学校訪問・各種行事・会議・研修会等への参加

実施月日	行 事 内 容	開催場所
4月4日 4月8日 4月27日 4月28日	・教職員着任式 ・転入校長、教頭歓迎会 ・学校訪問(布礼別小中・布部小中・山部中・樹海中) ・平成23年度上川管内教育委員会連合会総会及び第1回委員研修会	文化会館 ワインハウス 各小中学校 上川合同庁舎
5月13日 5月下旬～ 5月20日 5月23日	・平成23年第2回富良野市議会臨時会 ・各小中学校運動会(5月下旬～6月上旬) ・学校訪問(樹海小・山部小・麓郷小・麓郷中・東小) ・第15回富良野市少年育成協議会	市役所議事堂 各小中学校 各小中学校 図書館
6月9日～ 6月13日～ 6月15日 6月30日	・北海道都市教育委員会連絡協議会役員会(6/9～6/10) ・平成23年第2回富良野市議会定例会(6/13～24) ・平成23年度富良野市音楽大行進 ・学校訪問(富良野東中・富良野西中)	札幌市 市役所議事堂 富小グラウンド 各小中学校
7月21日 7月21日	・上川管内教育委員会連合会委員長部会研修会 ・学校訪問(烏沼小・扇山小・富良野小)	美瑛町 各施設

8月2日 8月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年第3回富良野市議会臨時会 ・平成23年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会(8/24～25) 	市役所議事堂 函館市
9月6日～ 9月中旬～ 9月21日 9月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年第3回富良野市議会定例会(9/6～16) ・各小中学校学校祭、学芸会(9月中旬～11月上旬) ・第16回富良野市少年育成協議会 ・第38回富良野市小中学校音楽発表会 	図書館 市役所議事堂 各小中学校 文化会館
10月5日 10月14日 10月17日～	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年第4回富良野市議会臨時会 ・第60回全国へき地教育研究大会及び第60回全道へき地複式教育研究大会上川大会 ・平成23年度富良野市教育委員会教育委員道外視察(10/17～19) 	市役所議事堂 山部中学校・ 鳥沼小学校 西脇市・愛知 県岡崎市
11月3日 11月10日～ 11月23日 11月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・富良野市条列表彰式 ・平成23年度上川管内教育委員連合会第2回委員研修会(11/10～11) ・平成23年度富良野市青少年表彰式 ・平成23年第5回富良野市議会臨時会 	市役所 東神楽町 文化会館 市役所議事堂
12月6日～	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年第4回富良野市議会定例会(12/6～16) 	市役所議事堂
1月6日 1月8日 1月10日 1月10日 1月13日 1月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年新年交礼会 ・平成24年富良野市成人式 ・平成24年山部地区新年交礼会 ・平成24年東山地区新年交礼会 ・平成24年富良野市新春教育懇話会 ・平成23年度富良野市PTA連合会新年懇親会 	文化会館 文化会館 山部福祉センター 東山公民館 ハイランドふらの ハイランドふらの
2月14日 2月14日 2月17日 2月29日～	<ul style="list-style-type: none"> ・上川南部教育委員会教育委員研修会 ・市町村教育委員会新任委員研修会 ・第17回富良野市少年育成協議会 ・平成24年第1回富良野市議会定例会(2/29～3/21) 	南富良野町 札幌市 図書館 市役所議事堂
3月上旬～ 3月17日 3月26日 3月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校卒業式(3月上旬～中旬) ・富良野小学校開校110周年記念式典 ・教職員離任式 ・校長、教頭惜別式 	各小中学校 富良野小学校 図書館 ハイランドふらの

2、教育委員会議

次に掲げる事項が、教育委員会議において議決が必要な事項で、それ以外の権限に属する事務は教育長に委任されている。

- (1) 教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。
- (2) 学校その他教育機関の設置及び廃止すること。
- (3) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること。
- (4) 請願、陳情等の処理に関すること。
- (5) 1件300万円以上の教育財産の取得及び処分を市長に申し出ること。
- (6) 1件300万円以上の工事の計画を策定すること。
- (7) 学校その他教育機関の敷地の選定及び変更を決定すること。
- (8) 道費負担教職員の懲戒及び道費負担教職員たる校長、教頭の任免その他の進退について内申すること。
- (9) 道費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (10) 前2号に定めるもののほか人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。
- (11) 教育長、部長、課長、館長の任免を行うこと。
- (12) 法令、条例、規則に定める委員の任命又は委嘱すること。
- (13) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について市長に意見を申し出ること。
- (14) 通学区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (15) 富良野市育英基金条例及び戸倉育英基金条例による貸与、若しくは給付対象者を決定すること。
- (16) 校長、教頭、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (17) 長の補助機関たる職員、若しくは長の管理に属する行政機関の長に教育委員会の権限に属する事務の一部を委任し、又は補助執行させること。
- (18) 市文化財を指定し、又は指定を解除すること。
- (19) 児童生徒の出席停止に関すること。

3、教育委員会議の評価

1) 議事について

条例や規則の改正、各種委員の承認等、事務的な手続きによるもの以外については、各委員の高い識見と課題解決に向けた積極的な発言が多くありました。また、各委員への報告や事前相談・協議、情報提供等により、円滑な会議運営がなされました。

議案として取り扱う中でも、内容の軽重を吟味・精査し、慎重な審議が必要な案件についてはしっかりと時間をかけて議論することができるよう、資料については事前に内容についての検討などの準備を行うために、会議開催日の5日前までに議案書や資料等を送付しています。

2) 学校訪問について

16校ある小中学校を全て訪問しながら、校長・教頭から説明を受けた後、児童生徒の学習の様子を見学し、子ども達の学びの様子や学校の概要、運営方針、施設、教育環境、授業等さまざまな視点から、学校現場の実態把握と総合的な観点から学校の運営状況についての把握に努めています。

3) 各種市内行事、会議、研修会等への参加

小中学校の運動会・体育祭・学芸会・学校祭・卒業式などの学校行事には、各委員が分担をしながら教育委員会を代表して出席しました。また、教育委員会が主管する教職員着任式、青少年表彰式、成人式、音楽大行進、少年育成協議会等の行事や式、会議にも出席しました。さらに、全道、管内、富良野沿線の委員研修会にも積極的に参加するとともに、委員全員による道外の先進地視察（兵庫県西脇市、愛知県岡崎市）を行い、委員の自己研鑽に努めました。

4) 広報活動

定例会・臨時会の審議内容については、市のホームページで公開しています。教育委員会や学校で取り組んでいる状況について、市民の一層の理解と協力を得るために、今後も引き続き広報紙やホームページなどをはじめ、新聞・ラジオ等のメディアの活用を進め、開かれた教育行政、効果的な教育行政を推進いたします。

平成 23 年度教育委員会事務事業点検・評価

事務事業点検・評価結果一覧

所管課	評価項目	細 項 目	23年度評価		備 考		
			達成度	効果度			
学校教育	1	市立小中学校配置計画	1	・適正規模適正配置に関する指針	A	A	
	2	学校跡地利活用	2	・旧樹海東小学校跡地利活用	C	C	
	3	学校施設整備	3	・富良野小学校屋内運動場改築事業	A	A	新規評価項目
	4	全国学力・学習状況調査	4	・全国学力・学習状況調査	A	A	
	5	全国体力・運動能力等調査	5	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査	A	A	
	6	幼児教育	6	・私立幼稚園就園奨励補助事業	A	A	
			7	・預かり保育補助事業	A	A	
			8	・障がい児保育補助事業	A	A	
	7	心の教育	9	・適応指導教室事業	A	A	
			10	・スクールカウンセラー活用事業	B	A	
			11	・子どもと親の相談員活用事業	B	A	
			12	・スクールソーシャルワーカー活用事業	B	A	
	13		13	・心に響く道徳教育事業	A	A	
	8	少年育成協議会	14	・少年育成協議会	A	A	
	9	学校危機管理	15	・スクールガードリーダー活用事業	A	A	
10	特別支援教育	16	・特別支援教育支援員活動事業	B	A		
		17	・特別支援連携協議会事業	B	A		
11	キャリア教育	18	・キャリア教育推進会議	B	B		
12	食育	19	・食育教育推進事業	A	A		
13	情報教育	20	・電子黒板利活用事業	B	A		
14	国際理解教育	21	・外国語指導助手招致事業	B	A		
15	健康診断事業	22	・児童生徒、教職員健康診断実施事業	B	A		
16	高校教育	23	・高校教育の推進	A	A		
社会教育	17	家庭教育	24	・家庭教育支援事業	B	A	
			25	・親と子のふれあい事業	B	A	
	18	青少年教育	26	・子ども未来づくり事業（未来づくりフォーラム）	A	A	
			27	・子ども会育成事業	B	B	
			28	・青少年表彰事業	B	B	
			29	・青少年補導センター運営事業	B	B	
			30	・放課後子ども教室推進事業	B	B	
	31	・学社融合推進事業	A	A			
	19	成人教育	32	・ふらの市民講座事業	B	B	
	20	高齢者教育	33	・ことぶき大学運営事業	B	B	
	21	芸術文化	34	・富良野芸術文化事業協会事業	B	B	
			35	・子ども芸術鑑賞教室事業	B	B	
36			・市民総合文化祭事業	B	B		
37			・ふらの演劇祭事業	B	A		
38	・舞台塾ふらの事業	B	B				

平成 23 年度教育委員会事務事業点検・評価

所管課	評価項目	細 項 目	23年度評価		備 考
			達成度	効果度	
社会教育	22 スポーツ振興	39 ・スポーツ環境の整備	B	B	
		40 ・人材及び団体育成	B	B	
		41 ・スポーツ施設の整備及び管理運営	B	A	
		42 ・競技スポーツの育成	A	A	
		43 ・アスリート育成派遣事業	A	A	新規評価項目
		44 ・子どもスキー技術向上支援事業	A	A	新規評価項目
生涯学習センター	23 文化財保護	45 ・文化財保護啓蒙・普及活動	B	B	
	24 博物館	46 ・博物館活動推進事業	B	A	
		47 ・自然体験・環境学習事業	B	A	
図書館	25 図書館	48 ・図書館運営管理事業	A	A	
		49 ・図書資料整備事業	B	B	
		50 ・読書活動推進事業	A	A	
		51 ・子どもの読書推進事業	A	A	
富良野学校給食センター	26 富良野学校給食センター	52 ・安全安心な学校給食の提供	B	A	
		53 ・「富良野ふるさと給食」の実施	A	A	
		54 ・食に関する指導の推進	B	A	
		55 ・学校給食費の徴収	A	A	新規評価項目
評価結果：集計		A（実践が進み成果を上げている）	23	39	
		B（実践が進んでいる）	31	15	
		C（実践に努めている）	1	1	
		D（努力を要する）	0	0	
		計	55	55	

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	市立小中学校配置計画	担当課	学校教育課				
事務事業名	適正規模適正配置に関する指針						
事業の目的・概要	少子化による児童生徒数の減少が進む中、子ども達にとって教育の機会均等の観点から十分な教育効果が得られ、又、公平性を保ちながら次代を担う子ども達が常に良好な教育環境を確保していくため。	事業年度	開始		終了		
			初回平成17～19年度 平成21年度		継続		
			H20	H21	H22	H23	
		事業費(決算) (単位:千円)					
前年度の課題	今回、市P連より提案を受けた学校については、第5次富良野市総合計画に盛り込み計画的に整備を進めるとともに、これ以外の学校については、単Pや地域との意見交換を重ねながら方向性を協議していく。						
当該年度の標目	少子化による児童生徒数の減少から、学校の配置計画や規模の適正化などが課題となり、集団活動を通して社会性、協調性、自立性などを培う教育環境を整える。						
事業の実施状況	<p>平成22年度において市P連より提案された「今後の市内小中学校における教育環境整備の在り方」を受け、市の財政状況を見据えながら市内6校(富小・東小・東中・山部中・樹海小・樹海中)を順次計画的に検討、整備することとし、平成23年度は国の予算を確保し、東中学校校舎大規模改造・屋内運動場改築事業に着手した。</p> <p>東小学校校舎・屋内運動場については、実施設計に着手しており、市P連より提案された内容に沿い、整備を進めている。また、少子化による児童生徒数の減少を受け、東部地区において今後の学校の在り方をPTA・地域住民により協議された。</p> <p>その中で</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育効果を発揮できる学校規模であること 全ての子供が通学でき、教育の機会均等が保障されていること 地域社会・文化や家庭との繋がりを持つこと及び児童生徒数の推移を考慮しながら検討を重ねられ、平成24年度においてその方向性が示される見込みである。 						
評価			H20	H21	H22	H23	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	A	A		
	効果度	B	B	A	A		
今後の取り組み	今後の課題						
	施設整備については国の予算を見極めて残る3校の整備方針及び優先順位の検討が必要。学校の在り方については、東部地区以外の学校についても単Pや地域との意見交換を重ねながら方向性を協議する必要がある。						
	改善策						
	学校の在り方が検討されている東部地区においては、学校及び地域要望を尊重しながら実現に向け進める。引き続き、児童生徒数の推移やPTA及び地域の意向を十分に踏まえながら、学校の在り方の協議を進める。						

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校跡地利活用	担当課	学校教育課			
事務事業名	旧樹海東小学校跡地利活用					
事業の 目的・概要	未利用行政財産の民間利活用を図るためH19年度に地域再生計画の認定を受ける。 廃校校舎等を国の地域再生計画に基づき、食農研修施設として利活用し、地域の憩いの場、そして都市からの交流の場とすることで、農業振興と地域経済の活性化を目指す。	事業年度	開 始		終 了	
			平成19年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
前年度の 課題	オーガニックアカデミーが安定した経営を図るためには積極的な広報活動が必要。ホームページの更新や研修の申し込みをしやすくするなどの改善が必要である。 地域振興を図るためには、オーガニックアカデミーと地域とのコミュニケーションが不足しており、オーガニックアカデミー支援協議会との連携、推進が必要である。					
当該年度の 標 目	地域再生計画の基づく目標数値(当初) ・雇用数 20名 ・定住者数 20名 ・研修者数 200名					
事業の 実施状況	<p>地域再生計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オーガニックアカデミー 2. 観光農園(試験農場)で農業プチ体験 3. 農産加工直売・売店 4. 農場民宿の運営 <p>上記の4つを柱に事業をスタートする。 オーガニックアカデミーについては、地域との連携を図りながら長期研修(H23年度は0人)、短期研修(H23年度は3回、延17名受講)や小中学校での食育教育、土壌分析などを展開してきた。他の事業については、担当役員の他界など様々な要因により事業規模を縮小せざるを得なくなり、未実施であった。 このため、旧樹海東小学校跡地利活用推進本部会議やオーガニックアカデミー支援協議会、東山地域連絡協議会とこれまでの検証・評価を行い、今後の方向性について協議したが、平成24年度からの更新については困難と判断し庁議においてその旨を決定した。</p>					
評 価		H20	H21	H22	H23	達成度・効果度の検証 当初計画していた事業展開となっていない部分が多く、雇用状況についても事業計画縮小に伴い、新規の雇用創出には至っていない。また、地域における交流人口の拡大も図られなかった。
	達成度	C	B	C	C	
	効果度	B	B	C	C	
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題					
	旧樹海東小学校跡地について、地元を含め今後の利活用について検討をする必要がある。					
	改 善 策					
	旧樹海東小学校跡地利活用推進本部会議において、今後の利活用について検討する。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校施設整備	担当課	学校教育課			
事務事業名	富良野小学校屋内運動場改築事業					
事業の目的・概要	平成22年度に実施した耐力度調査で、構造耐力及び保存度で建物が危険な状態であると測定されたため、老朽化した屋内運動場を改築する。 ・木造平屋建 1,258㎡ （うち、アリーナ853㎡ 渡廊下31㎡）	事業年度	開 始		終 了	
			平成22年度		平成23年度	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
				353,724		
前年度の課題	【新規点検・評価事業】					
当該年度の目標	危険な状態にある屋内運動場を改築し、子ども達が安心して学習できる環境整備を行うとともに、災害時の避難場所として利用する際の利便性・安全性を高める。					
事業の実施状況	富良野地域産の間伐されたカラマツ材を原料にした集成材を使用。 主要室 アリーナ、ステージ、器具庫(3室)、放送室、機械室、更衣室(男・女) トイレ(男・女・障がい者用多目的)、渡り廊下 国庫補助 167,826千円					
評価					達成度・効果度の検証	
	達成度	H20	H21	H22	H23	安全性が不足していた屋内運動場を改築したことにより、児童の授業や少年団活動等の充実が図られただけでなく、災害時の避難所としても安全性が確保された。 また、地域の木材を使用したことで、地場産業の振興にも一定の効果があった。
	効果度				A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	学校開放事業のみならず、スポーツ活動や行事など地域の拠点としての活用が必要である。					
	改 善 策					
	学校開放事業の他、各種スポーツ大会や地域行事の会場として積極的な活用を図る。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	全国学力・学習状況調査	担当課	学校教育課			
事務事業名	全国学力・学習状況調査					
事業の目的・概要	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、その学習改善を図る。	事業年度	開 始		終 了	
			平成19年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
国費	国費		国費	国費		
前年度の課題	学力調査の結果を受け、各学校における指導方法の改善プランが計画的に実践され、今回の抽出校調査の結果では、対象となった小学6年生、中学3年生の学力は2教科の合計で北海道の平均値を上回り、教科によっては全国の平均正答率を上回っている。 今後もより一層の基礎・基本の定着と習得した知識・技能を活用する力の向上を図ることや学ぶ意欲を高める授業の工夫改善を進める必要がある。					
当該年度の目標	児童生徒の学力の向上と状況調査					
事業の実施状況	<p>平成23年度は、当初4月19日(火)を調査実施予定としていたが、東日本大震災の影響により、全国規模の調査としては取りやめたが、北海道教育委員会において「全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査」として実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 平成23年9月27日(火)及び28日(水) ・実施対象及び人数 小学6年生：476名 中学3年生：469名 ・実施教科 国語、算数及び数学 <p>学力調査の結果は、全ての小学校の国語B・算数B、中学校の国語B・数学Bの問題で全道の平均を上回る結果となり、全体的に記述式・短答式の問題で正答率が高い傾向にある。</p>					
評価					達成度・効果度の検証 各学校での指導方法の工夫・改善が進み興味関心を持たせる体験活動(演劇、読書活動など)も取り入れたことから、高い学習意欲が全道に比べ高くなり、これまでの取組みが成果を上げている。	
		H20	H21	H22		H23
	達成度	B	A	A		A
今後の取組み	今 後 の 課 題					
	本市においては、学校支援ボランティアによる読み聞かせや朝読書など特徴的な取組みが確立されつつあるが、さらなる学力向上に向けたより一層の指導方法の改善等が必要である。今後もより一層の基礎・基本の定着と習得した知識・技能を活用する発表の場を多くし、学力の向上を図ることや、学ぶ意欲を高める授業の工夫改善と公開授業を積極的に進める必要がある。					
	改 善 策					
	各学校の改善プランには朝読書の継続・読書時間の量的な増加だけでなく、全ての教科で役立つ様な読書の方法を考えるなど、さらなる図書館との連携を深める取組みが必要である。家庭学習の習慣化を図る中で、教育相談日(家庭訪問する日)を設定し、具体的な家庭学習の推進を行う。担任から学期毎の進捗(到達)を説明、家庭における具体的な取組の仕方を説明し、「家庭学習ノート」の活用を図る。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	担当課	学校教育課			
事務事業名	全国体力・運動能力、運動習慣等調査					
事業の目的・概要	子どもの体力が低下している状況を踏まえて、国が全国的な子どもの体力状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検討し、その改善を図ることを目的とする。	事業年度	開始	終了		
			平成19年度	継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			国費	国費	国費	国費
前年度の課題	<p>身体の柔らかさを表す「長座体前屈」が少し劣るものの、他の種目は全国平均より高い状況である。今後、柔軟性を向上させる等の取組みにより、更にバランスの良い身体づくりとスポーツの際のケガの防止にもつながっていく。</p> <p>市内各校では独自に体力調査を実施し子どもたちの体力向上に継続した取組が行われていることから、全国調査にとらわれることなく、各学校において体力向上に向けた取組みを継続していく必要がある。</p>					
当該年度の目標	児童生徒の体力の向上と現状調査					
事業の実施状況	<p>平成23年度は、当初4月から7月末の間に調査を実施予定としていたが、東日本大震災の影響により、全国規模の調査としては取りやめたが、北海道教育委員会において、体力・運動能力の向上は重要な課題であり、状況を継続的に把握していく必要があることから、当初の調査対象抽出校に対し、調査を実施することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 抽出校 4校(小学校:3校 中学校:1校) 実施対象 小学校5年生:111名、中学校2年生:92名 実施種目 小学生:握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン 50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ 中学生:握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン 持久走、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ <p>体力合計点数では小学生男子が全道平均を若干下回るが、それ以外女子・中学男女については全道・全国平均より高い状況にある。また、「スポーツが好き」・「運動部やスポーツクラブの加入率」ではともに全国平均を大きく上回る状況となっている。</p>					
評価		H20	H21	H22	H23	達成度・効果度の検証 各学校・地域を挙げた体力づくり、スポーツ少年団活動、部活動が継続的に取り組まれており、各種大会でも優秀な成績を上げている。
	達成度		A	A	A	
	効果度		A	A	A	
今後の取組み	今後の課題					
	<p>各学校でも独自に体力調査をおこなっており継続した取組みが行われていることから、引き続き体力向上の取組みを継続する必要がある。</p> <p>冬期間における体力の低下も見られることから、スキー等を通しての活動の充実が必要である。</p>					
	改善策					
今後の取組み	<p>小学校では少年団活動、中学校での部活動への積極的な加入を促し、家庭・学校・地域スポーツ関係団体と連携しながらスポーツにふれ合うことで「知育・体育・徳育」の調和のとれた成長を促進する。</p> <p>「早寝・早起き・朝ご飯、家族そろって晩御飯」運動を通じた食育を通じた体力向上を図り、「チャレンジデー」などの体力向上のイベントへの積極的な取組みを全市的に進める。</p>					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	幼児教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	私立幼稚園就園奨励費補助					
事業の目的・概要	幼稚園教育の普及・充実と子育て支援を図るため、国の基準に準じ、保護者の経済的負担軽減を図ることを目的とする。	事業年度	開 始		終 了	
					継続	
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			33,159	34,554	35,943	39,371
前年度の課題						
当該年度の目標	保護者の負担軽減を図り、幼稚園教育を充実する					
事業の実施状況	<p>国の基準(毎年改正)幼稚園就園奨励費補助金交付要綱(平成10年6月17日文部大臣裁定) 園則に定める入園料及び保育料を上限に補助金を交付し、保護者の子育てにおける経済的負担を軽減する。 平成23年度支給者計 375名</p> <p>平成22年4月に国の制度改正が行われ、従来の条件(兄・姉が幼稚園児の場合)に加え、新条件(兄・姉が小学校1~3年生の場合)が加えられている。</p> <p>通園する9割が対象となっている。</p>					
評価					達成度・効果度の検証	
		H20	H21	H22	H23	昨年以上の補助額の増加により、保護者の負担の軽減がされた。
	達成度	A	A	A	A	
効果度	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	国の制度で基準により実施している。					
	改 善 策					
今後の取り組み	国の制度で基準により実施している。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	幼児教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	預かり保育補助事業					
事業の目的・概要	子育て支援を目的とし、また保護者の就業を支援するため、幼稚園における預かり保育の充実を図る。	事業年度	開 始		終 了	
					継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
1,257	1,229		1,221	1,413		
前年度の課題	子育て支援の充実					
当該年度の目標	預かり保育の充実により、保護者ニーズに対応した幼稚園教育を実現する					
事業の実施状況	<p>幼稚園に対して預かり保育の充実を図り、保護者負担の軽減を図るため、預かり保育対象園児の人数及び延長時間実施の日数並びに、土日・長期休業期間の実施日に対して補助金を交付。</p> <p>定員432名に対し117名(27%)が利用し、市内4園で8学級が開設されている。 1学級35名を限度に1名以上の教員を配置することを条件に補助。</p>					
評価					達成度・効果度の検証 預かり保育を希望する保護者のニーズに応じて実施されており、預かり保育利用料についても安価で行われている。	
		H20	H21	H22		H23
	達成度	B	A	A		A
	効果度	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	子育て支援のさらなる充実					
	改 善 策					
	子育て支援のさらなる充実を支えるための予算の確保					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	幼児教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	障がい児保育補助事業					
事業の目的・概要	私立幼稚園における障がい児教育の充実と保護者負担の軽減を図る。	事業年度	開 始		終 了	
					継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
400	700		800	600		
前年度の課題	発達障害等の判定に時間がかかる一方で、園では障がい児(疑い)の支援のため、教諭を増やす等の対応が求められている。 就学時の幼稚園から小学校への情報のスムーズな引継ぎが求められている。					
当該年度の目標	障がい児の幼児教育を受ける機会を拡充する					
事業の実施状況	5月1日現在に在籍している障がい児に対して教育を実施するため補助金を交付 園児一人当たりの交付額 100,000円 平成23年度は市内2園の6名が対象					
評価					達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	障がい児の幼児教育を受ける機会が拡充できた。 市特別支援教育マスタープランに基づき、専門家チームが就学前相談や指導等を行い、連携強化を図っており成果が上がっている。	
	効果度	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	幼稚園、保育所を含めた 障がい児に対する就学時のスムーズな引継ぎが行える連携が必要。					
	改 善 策					
	特別支援連携協議会の取り組みにより、障がい児の幼児教育のさらなる充実や義務教育への引継ぎを円滑に行う。 幼・保・小との連携を図るため「育ちと学びのファイル すくらむふらの」を活用し、円滑な就学支援を行う。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	適応指導教室事業					
事業の目的・概要	不登校及びその傾向にある市内の児童生徒に対し、保護者、学校、関係機関等との連携のもと、学校への復帰訓練と、基本的な生活習慣の改善や豊かな情操・社会性の育成を図る。 不登校児童への支援及び不登校児童生徒を抱える家庭を支援するとともに、教育活動の充実を図る。 ひきこもりや不登校問題の解決をめざし、家庭や学校関係機関との連携強化に努める。 焦らず、あきらめず、コミュニケーションを基本に推進	事業年度	開 始		終 了	
			平成15年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
	1,800	1,800	1,800	1,800		
前年度の課題	不登校の市内の児童生徒に対し、在籍校との連携を図りながら適応指導教室に通級してもらい、学校へ復帰を目指すとともに、適応指導教室の意義を学校及び保護者に広く周知していく。					
当該年度の目標	不登校及びその傾向にある市内の児童生徒に対し、学校への復帰訓練。					
事業の実施状況	不登校児童への支援・指導内容の充実 不登校児童生徒を抱える家庭を支援するとともに、教育活動の充実を図る ひきこもりや不登校問題の解決をめざし、家庭や学校・関係機関との連携強化に努める。 焦らず、あきらめず、コミュニケーションを基本に推進					
評価	達成度・効果度の検証					
		H20	H21	H22	H23	
	達成度	A	A	A	A	
効果度	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	不登校の市内の児童生徒に対し、在籍校との連携を図りながら適応指導教室に通級してもらい、学校へ復帰を目指すとともに、適応指導教室の意義を学校及び保護者に広く周知する必要がある。					
	改 善 策					
	周知の手段として「適応指導教室」での取り組みなどを諸会議での発言や活動内容のチラシなどを配布する。 適応指導教室に通級している児童生徒が抱える問題の多くは、家庭などにも起因していることから児童生徒及び家庭に対する一貫した支援が必要となっていることから指導員の充実が求められている。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	スクールカウンセラー活用事業					
事業の目的・概要	生徒の不登校や問題行動等の対応に当たっては、学校におけるカウンセリング等の機能の充実を図ることが重要な課題となっている。このため、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する「スクールカウンセラー」を配置し生徒への心のケアを図る。 ・生徒へのカウンセリング ・教職者、保護者に対する助言・援助	事業年度	開始	終了		
			平成17年度	継続		
事業費(決算) (単位:千円)			H20	H21	H22	H23
			道費	道費	道費	道費
前年度の課題	課題を抱えている生徒や保護者がスクールカウンセラーと関わることのできないケースへの対応をすすめる。各学校では教育相談の充実を図っているところではあるが、思春期の子どもたちの心の成長過程において、悩み、不安を抱えることが多く、相談件数が増加傾向にあることから引き続き、教職員や保護者に対し、更なる適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。					
当該年度の目標	生徒の不登校、いじめへの対応と心のケア。					
事業の実施状況	生徒へのカウンセリング 教職者に対する助言・援助 保護者に対する助言・援助 H23年度実績 2校(中学校) 日数・時間 34日272時間、来談者404名、相談件数352件					
評価	達成度・効果度の検証					
	達成度	B	B	B	B	配置された学校で生徒・保護者・先生などがカウンセリングを受けた実績もあがり、生徒の心のケア、保護者との相談業務に着実な成果が上がっている。
	効果度	A	A	A	A	
今後						
今後の取り組み	各学校では教育相談の充実を図っているところではあるが、思春期の子どもたちの心の成長過程において、悩み、不安を抱えることが多く、相談件数が増加傾向にあることから引き続き、教職員や保護者に対し、更なる適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を求めることが必要である。					
	改善策					
	スクールカウンセラー、学校、適応指導教室等との情報交換と連携を図り、こうした事業の取り組みを積極的にPRし、気軽に相談を受けられる体制づくりを進めるとともに、小学校への配置拡大を進める。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	スクールソーシャルワーカー（SSW）活用事業					
事業の目的・概要	いじめ・不登校、暴力行為、児童虐待等の問題行動の背景には、児童生徒が置かれた様々な環境の問題が複雑に絡み合っており社会福祉等の専門的な知識や経験を有するスクールソーシャルワーカーを活用し、関係機関との連携や多様な支援を展開する。 問題を抱えた児童生徒が置かれた環境への働きかけ 関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整 学校内におけるチーム体制の構築、支援 保護者・教職員等に対する支援・相談・情報提供	事業年度	開 始		終 了	
			平成20年度		平成23年度	
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			国費	国費	国費	国費
前年度の課題	スクールソーシャルワーカー自らが、積極的に学校問題の早期発見に努めるとともに、問題解決には時間を要するため、事業を継続する必要がある。 市内では中学校卒業後、高等学校へ入学した生徒が不登校や退学するといったケースが散見されることから、新たな課題となってきた。					
当該年度の標目	スクールソーシャルワーカー事業の展開にあたり、SSWの資質、役割と活動について、保護者・教職員・関係機関に存在を啓発し、関係機関と連携を図りながら不登校児童生徒が置かれている様々な環境に働きかけを行い、問題解決に向けた活動を行う。					
事業の実施状況	問題を抱えた児童生徒が置かれた環境への働きかけ 関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整 学校内におけるチーム体制の構築、支援 保護者・教職員等に対する支援・相談・情報提供 教職員等の研修活動等において、福祉専門技術の研修を行なう 訪問活動回数～学校20回、家庭56回、その他15回の計91回 ケース会議等12件12回の47人参加					
評価					達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	訪問活動回数で学校20回、家庭56回、その他15回の計91回を数え、ケース会議12件12回47人と実績が着実に上がっている。
	効果度	A	A	A	A	
				今 後 の 課 題		
今後の取り組み	スクールソーシャルワーカー自らが、積極的に学校問題の早期発見に努めるとともに、問題解決には時間を要するため、事業を継続する必要がある。 市内では中学校卒業後、高等学校へ入学した生徒が不登校や退学するといったケースが散見されることから、新たな課題となってきた。					
	改 善 策 課題を抱える児童生徒に対しスクールカウンセラー、学校、適応指導教室との情報交換と連携が必要であり、特に適応指導教室に通級している児童生徒及び保護者との密接な関係構築が求められている。 平成24年度より適応指導教室に、スクールソーシャルワーカーの機能を持たせ、人材を配置し当事業を移行させる。 中高等学校経営連絡協議会との連携強化を図り、各ケースへの迅速な対応を図る。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	道徳教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	心に響く道徳事業					
事業の目的・概要	自然体験や社会体験、生活体験の不足や人間関係の希薄さなどから、規範意識や倫理観、生命を大切に他人を思いやる心など、豊かな心を育む「心の教育」の充実に努めるため、地域の人材や多様な専門分野の社会人を特別非常勤講師として任用し、道徳の時間等において子どもの心に響く授業を推進し、道徳教育の充実に図る。	事業年度	開 始		終 了	
			平成19年度		継続	
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
				学社融合推進事業費活用	78	65
前年度の課題	新学習指導要領では道徳教育が重要視されており今後においても様々な人材、バラエティに富んだ講師を確保することによって、児童生徒が常に興味と感心を持たせることが重要になることから、引き続き道徳教育特別非常勤講師の確保が求められる。					
当該年度の目標	命を大切にすることをはぐくむ教育を推進する観点から、児童生徒が命の尊さなどを実感できる道徳教育の充実					
事業の実施状況	<p>富良野ゆかりの講師による道徳教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富良野商工会議所 会頭 荒木毅 演題 「職業観と人間の生き方」 実施校 3校 ・富良野自然塾 副塾長 林原博光 演題 「環境教育と人間の生き方」 実施校 6校 ・北海道大学 農学研究院長 松井博和 演題 「生きるとは何か・学ぶとは何か」 実施校 2校 					
評価	達成度・効果度の検証					
	達成度	H20	H21	H22	H23	学習状況調査において「人が困っている時は、進んで助ける」と答えた児童生徒の割合が高かったことから、命の大切さや他人を思いやる心が育ってきている。
			B	A	A	
効果度		B	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	引き続き富良野にゆかりのある身近な人材、バラエティに富んだ講師の確保が求められる。					
	改 善 策					
	学校と講師の日程調整などを円滑に行いながら、多くの学校で富良野にゆかりのある講師による道徳教育を推進するとともに、研究指定校などの取り組みを積極的に行いたい。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	少年育成協議会					
事業の目的・概要	いじめや不登校の防止・虐待防止・登下校時等の安全対策などについて、教育委員会・学校・PTA・関係機関団体などが連携して学校・家庭・地域でのネットワーク化を図り、日常的に情報交換を行い、迅速かつ的確に対応する。	事業年度	開 始		終 了	
			平成18年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
前年度の課題	各学校、PTA、関係機関と連携を図り情報を共有して取り組んでいるが、いじめ対策、不登校対策、登下校時の安全対策、虐待防止対策など団体の事例発表の場となっていることから、今後は相互に連携した取り組みを進める必要がある。					
当該年度の目標	地域で連携し子どもたちの安全・安心の推進。					
事業の実施状況	<p>市内19の関係機関・関係団体が協議会を開催し、情報共有する中で子どもたちの安全な生活環境の確保に努める。 5月23日、9月21日、2月17日開催</p> <p>協議会構成団体 ・富良野市校長会 ・富良野市PTA連合会 ・富良野高等学校 ・富良野緑峰高等学校 ・富良野警察署 ・富良野保健所 ・富良野医師会 ・人権擁護委員 ・連合町内会協議会 ・子ども会育成連絡協議会 ・要保護児童対策地域協議会 ・生徒指導連絡協議会 ・富良野地方石油業協同組合 ・エクウエート富良野 ・民生委員児童委員協議会 ・保健福祉部こども未来課 ・家庭児童相談室 ・社会教育委員会 ・富良野市教育委員会</p>					
評価	達成度・効果度の検証					
	達成度	A	A	A	A	各関係機関が連携し、ネットワーク化を図ることにより安全対策の推進につなげることができた。また子ども達の安全な地域づくりのために、情報を共有し各団体での取組に活かすことができた。
	効果度	A	A	A	A	
	H20	H21	H22	H23		
今後の取組み	今 後 の 課 題					
	各関係機関との連携を図り情報共有して取り組んでいるが、いじめ対策、不登校対策、下校時の安全対策、虐待防止対策など各関係機関や団体の事例発表、情報交換の場となっている。今後は相互に連携した取り組みを進める必要がある。					
	改 善 策					
	各関係機関が取り組んでいる事業を相互連携した取り組みとして、更なる連携・情報交換を進めていく。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校危機管理	担当課	学校教育課			
事務事業名	スクールガードリーダー活用事業					
事業の目的・概要	学校の管理下における事件・事故が大きな問題となっている近年の状況を踏まえ、学校の安全管理に関する取組の充実を図るため、防犯に関する専門的な知識と技能を有するスクールガードリーダーによる校区の巡回指導を実施することにより、危険箇所等を未然に把握し評価・改善につなげる	事業年度	開始	終了		
			平成19年度	平成23年度		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			道費	道費	120	126 (道費84)
前年度の課題	今後も教職員の危機管理意識の高揚とスクールガードリーダーをより効果的に活用するための組織体制、機能の充実を図るための養成講習会等が必要。					
当該年度の目標	児童生徒の登下校や学校での安全を図る。					
事業の実施状況	警察OBによる担当区域の巡回指導(登校時、下校時、学校行事など) 学校周辺の環境等の点検・評価 学校の施設・設備等の点検・評価 登下校時における児童生徒の安全な行動に関する指導・評価 学校の安全点検として春・秋の年2回、全14校を訪問し指導を行なっている。					
評価					達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	A	スクールガード・リーダーの配置により児童生徒や教師の安全に対する意識の向上が図られるとともに市P連が主体となった校区を超えた運動の展開が進められようとしている。
	効果度	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	平成19年より導入したスクールガードリーダーをより児童生徒や教師及びPTA、地域住民の安全に対する意識の向上が図られ、平成23年に市PTA連合会から「富良野市スクールガード運動に関する」要望書が提出されたことから、今後は警察など関係機関との連携を深めながら、継続したスクールガード運動の展開が必要。					
	改 善 策					
今後の取り組み	学校支援地域本部事業による、ボランティアの活用や人材育成などを進める。 富良野市PTA連合会及び富良野市子ども110番の家連絡協議会と連携し、児童生徒の登下校時の安全確保や危機管理に対する意識高揚を図る。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	特別支援教育支援員					
事業の目的・概要	市特別支援教育マスタープランに基づき、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒への教育的対応がより求められている。こうした児童生徒に対する日常生活や学習支援、安全確保などの学習活動上のサポートを行う。	事業年度	開 始		終 了	
			平成20年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
5,590	6,371		7,711	10,498		
前年度の課題	就学相談を含めた相談支援体制の構築 幼児児童生徒の実態に応じた個別の支援計画の策定 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校との一貫した連携					
当該年度の目標	障がいのある児童生徒のほか、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥・多動性障がい)、高機能自閉症等を含めた児童生徒一人一人のニーズに応じた教育の推進					
事業の実施状況	配慮・支援が必要な児童生徒は増えてきており、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うための指導体制を進めている。 配置支援員 富良野小3名、扇山小3名、東小2名、山部小1名、東中1名の計10名 (平成22年度 計7名) 対象児童 184名(平成22年度 134名)					
評価					達成度・効果度の検証 各学校のコーディネーターとの関わり、担任との情報共有の部分で課題が見られたが、改善しながら適切な支援に取り組むことができた。	
		H20	H21	H22		H23
	達成度	B	B	B		B
	効果度	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。更なる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれるとともに、ニーズに応じた支援員の増員が必要。 各学校に配置している支援員と教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。 幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校との一貫した連携と幼児児童生徒の実態に即した個別の支援計画の作成が必要。					
	改 善 策					
	研修・講習会に参加し、困り感を抱える児童生徒への適切な支援を行えるよう、更なるスキルアップを行う。 各学校が抱える課題を連携会議等、教育、福祉部門で共有しながら、課題解決ができる環境を整備する。 就学指導を含めた特別支援教育アドバイザーの有効活用を図る。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	特別支援連携協議会					
事業の目的・概要	市特別支援教育マスタープランに基づき、全ての幼児・児童・生徒が、障がいのあるなしに関わらず、お互いの個性を尊重しあいながら、夢と希望を持って心豊かに、たくましく育ち合う教育の充実を図る。 ・心身に障がいのある幼児及び児童生徒の適正な就学を図る ・協議会に知的部会・情緒部会・言語部会・専門家チーム(就学相談・就学指導)を設置	事業年度	開 始		終 了	
			平成20年度		継続	
前年度の課題	就学相談を含めた相談支援体制の構築が必要なため、巡回指導教員や特別支援教育の専門員の配置が望まれている。 幼児児童生徒の実態に応じた個別の支援計画の策定 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、福祉、医療機関との一貫した連携	事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			227	237	238	177
当該年度の目標	障がいのある児童生徒のほか、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥・多動性障がい)、高機能自閉症等を含めた児童生徒一人一人のニーズに応じた教育の推進					
事業の実施状況	組織体制の強化(就学相談・就学指導を行う専門家チームスタッフの増員) 富良野市特別支援教育マスタープランの検証と評価 医療・福祉等関係機関との連携					
評価	達成度・効果度の検証					
	達成度	B	B	B	B	特別支援教育支援員の増員により、一人一人の教育的ニーズに応じた教育の推進を図ることができた。組織体制の強化として専門家チームスタッフを小学校のコーディネーターが兼務し児童の把握・理解がスムーズになった。
効果度	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。更なる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれる。 引き続き保育所・幼稚園・小学校・中学校・高校・福祉・医療機関との一貫した連携が必要。					
今後の取り組み	改 善 策					
	就学相談を含めた相談支援体制の更なる強化が必要であり、関係機関と情報共有し児童生徒の把握・理解をしていく。 富良野市特別支援教育マスタープランの検証及び評価と見直しを検討。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	キャリア教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	富良野市キャリア教育推進会議					
事業の目的・概要	キャリア教育は学校教育において児童生徒が「生きる力」を身に付け、勤労観や職業観及び職業に関する知識・技能等の育成を図る観点から関係機関、団体等が一体となり、協議・連携を推し進めていく必要がある。	事業年度	開 始		終 了	
			平成17年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
前年度の課題	生徒たちに訪問事業所で「何を学ぶか」という目的意識を明確に持たせ、働くことの意義や自分の生き方を見つめ、「生きる力」育ませる。 生徒たちの基本的な生活習慣、コミュニケーション能力の低下が指摘されていることから人間関係能力を高めることが求められている。このため家庭における教育を促す。					
当該年度の目標	児童生徒一人ひとりの望ましい勤労観・職業観の育成を図る					
事業の実施状況	<p>推進会議(1回開催) 内容:今後の富良野市におけるキャリア教育の在り方について 職場体験実施校 中学校:7校 高等学校:2校 関係機関等との連携 ・富良野商工会議所により事業所紹介 ・ハローワーク旭川による職業講話の斡旋</p>					
評価	達成度・効果度の検証					
		H20	H21	H22	H23	
	達成度	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	
職場見学や職場体験学習等は、授業では味わえない経験ができているが、キャリア教育を教育活動全体を通じた活動となっていない。						
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	富良野市キャリア教育推進会議がマンネリ化してきている。 新学習指導要領全面実施に向けて、キャリア教育の目的意識の明確化を図る必要がある。					
	改 善 策					
キャリア教育が教育活動全体を通じた活動となるよう、各教科との関連付けや年間計画を作成するなど取組を推進していく。 富良野市キャリア教育推進会議の組織体系や活動内容等の再考し、キャリア教育全体を踏まえた推進会議となるよう再構築を図る必要がある。						

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	食育教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	食育教育					
事業の目的・概要	子どもたちに食の楽しさ・大切さを伝えるために家庭だけでなく保育所・幼稚園・学校など地域の関係者が連携しながら、食育の重要性について共通の認識を持ち、子どもたちの健やかな心と身体を育ていくことを目的とし、ガイドラインを基に食育推進を行う。	事業年度	開始	終了		
			平成20年度	継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			32	33	33	35
前年度の課題	毎年6月が食育月間なので、子ども達の食育を関係機関と連携して取り組むことが必要。また、各学校において、「食育の年間指導計画」が整備されていることから、引き続き学力や体力、運動能力向上を運動させていく。					
当該年度の目標	食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。					
事業の実施状況	平成20年3月に策定した「子どもたちのための食育ガイドライン」をもとに概略版を作成し、幼稚園、保育所、学校で全員配布。 栄養教諭(2名)の配置。 栄養教諭による食育指導と啓発活動。 広報等を通じて栄養教諭の活動を周知し、食育の重要性・取り組みを紹介。					
評価	達成度・効果度の検証					
	達成度	B	B	B	A	「子どもたちのための食育ガイドライン」等をホームページに掲載し、広く市民に紹介。 概略版の作成・配布により、児童生徒及び保護者へ啓発。
	効果度	A	A	A	A	
今後の取り組み	今後の課題					
	各学校の「食育の年間指導計画」と連動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。					
	改善策					
今後の取り組み	健康診断等により児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う。 栄養教諭の増員に向け、全道市長会等を通じて強く要請していく。 学校給食の「食べ残しゼロ運動」や「早寝、早起き、朝ごはん、家族そろって晩ごはん」の促進を継続実施する。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	情報教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	電子黒板活用事業（H20、21年度は教育用コンピューター整備事業）					
事業の目的・概要	電子黒板の活用は、児童生徒の「関心、意欲、態度」という観点で効果があり、教員の授業研究・授業公開と併せて、電子黒板活用による授業を展開することにより児童生徒の学力内容への理解向上を図ることを目的とする。	事業年度	開 始		終 了	
			平成21年度		継続	
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			7,613	12,776		
前年度の課題	教員への電子黒板活用研修会を随時実施し、その活用を促すとともに、各小中学校での授業公開日等での活用を促す。					
当該年度の目標	教員による授業研究及び公開授業の推進と児童生徒の学習内容への理解向上					
事業の実施状況	デジタル教科書等により電子黒板を活用し、児童生徒の学習内容の理解向上を図る。 校内研修等による電子黒板活用方法の理解及び実践。 新学習指導要領改訂に伴う教科用図書採択に合わせたデジタル教科書の購入。					
評価	達成度・効果度の検証					
		H20	H21	H22	H23	デジタル教科書等の活用により、教科指導の幅が広がり、児童生徒の学習意欲の向上が図れる。
	達成度	B	B	B	B	
効果度	B	B	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	市教研情報班において、引き続き教材研究や研修を促す必要がある。また、さらなる電子黒板の活用のためデジタル教材の導入に向けた教材予算の確保も必要である。					
	改 善 策					
今後の取り組み	平成24年度において社会科副読本の作成が予定されていることから、作成委員会に情報班の教員を参加させ、副読本のデジタル版作成を検討し、デジタル教材の普及を進める。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	国際理解教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	外国語指導助手招致事業					
事業の目的・概要	英語に慣れ親しみ、日常会話や外国の文化、生活、習慣などを学ぶために、外国語指導助手を小中学校に派遣し、英語力向上を図る。	事業年度	開始	終了		
			平成7年度	継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
		7,914	10,295	13,795	14,220	
前年度の課題	小学校において外国語活動が本格化されることから、中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲の向上を促すため小中学校担当者の更なる連携が必要。					
当該年度の目標	児童生徒が英語を理解し、表現する基礎能力を養い外国文化や生活習慣を学び、国際理解教育を英語力の向上から深める。					
事業の実施状況	JETプログラムによる外国語指導助手を3名、小学校外国語活動等アドバイザー1名の計4名体制で、市内小学校・中学校に派遣して英語教育、総合的な学習時間に活用する。 外国語活動推進委員会を設置し小中学校教諭、担当教諭と指導助手との連携を図っている。					
評価					達成度・効果度の検証	
		H20	H21	H22	H23	
	達成度	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	
	外国語活動推進委員会にて、推進体制や指導形態のため担任教諭とALTとの協議を進め、小中連携による体制が整備されつつある。					
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	<p>新学習指導要領に対応するため小学校への派遣により学習意欲向上を図っているが、児童の積極的なコミュニケーション能力の向上も必要である。 小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携が必要である。 平成25年度から英語の話せる富良野っ子をめざした指導体制の充実が必要。</p>					
	改 善 策					
	<p>小学校において外国語とふれ合う機会を増やすため「英語ルーム」など気軽に英語とかかわれる環境づくりを行っていく。 イングリッシュ・キャンプなどの事業を取り入れコミュニケーション能力向上を図っていく。 JETプログラムによる外国語指導助手の更新時にあたり、「英語の話せる富良野っ子」をめざす観点から独自採用も検討する。</p>					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	健康診断事業	担当課	学校教育課				
事務事業名	児童生徒、教職員健康診断実施事業						
事業の目的・概要	健康診断事業の円滑な実施によって、児童生徒、教職員の健康増進を図る。 児童生徒の健康診断 = 毎学年定期に児童生徒の健康診断を行わなければならない。 (学校保健安全法第13条第1項) 教職員健康診断 = 学校の設置者は毎学年定期に職員の健康診断を行わなければならない。 (同法第15条第1項) 就学時健康診断 = 翌学年から就学させるべき者の健康診断を行わなければならない。 (同法第11条)	事業年度	開 始		終 了		
			H20		H21		H22
前年度の課題	教諭の健康診断受診率(現在99%)の更なる向上と健康管理の意識を向上させる。また、健診により、児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う。 就学時健康診断時に支援学級、通級指導教室への通級等何らかの支援が必要とされる児童が発見されることから、該当児童及び保護者への相談・支援体制の充実が必要。						
当該年度の目標	児童生徒の健康診断の完全実施						
事業の実施状況	<p>児童生徒の健康診断 ・ 学校保健安全法第13条第1項に基づき毎学年定期に実施。</p> <p>教職員健康診断 ・ 同法第15条第1項に基づき毎学年定期に実施。 ・ 平成23年度受診状況 対象者184名中183名受診(受診率99%) ・ 年2回の健診受診案内通知、未受診者に個別に呼びかけ実施</p> <p>就学時健康診断 ・ 同法第11条に基づき実施。 ・ 平成24年度 就学児童 184名実施 ・ 何らかの支援が必要とされる児童を発見し、就学前から該当児童及び保護者への相談・支援を実施している。</p>						
評価		H20	H21	H22	H23	達成度・効果度の検証 児童生徒の各種検診の実施により疾病の予防と早期発見につながっている。 教職員の受診率は100%となっていないが、高い水準で実施が行われている。	
	達成度		B	B	B		
	効果度		A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。 児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う必要がある。 教職員の健康診断受診率100%の達成と健康管理への意識の向上が必要。						
	改 善 策						
	児童生徒及び保護者に対して、保健だよりの発行を通じ健康管理の意識向上を促す。 教職員への受診の案内を年2回、随時未受診者への個別の呼びかけを引き続き行う。						

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	高校教育	担当課	学校教育課			
事務事業名	高校教育の推進					
事業の目的・概要	中・高の相互連携による教育振興と魅力ある高校づくりを図る。	事業年度	開 始		終 了	
			平成19年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
前年度の課題	学力向上プロジェクトチームによる中学・高校の接続の在り方の研究、学力向上のための指導内容・方法の工夫、改善の検討が必要。					
当該年度の標目	<p>中高の情報を共有し、今日的な教育課題の解決を図る。</p> <p>富良野地区の望ましい高校教育づくりを推進する。</p> <p>地域や保護者の教育ニーズに対応した高校教育の充実を図る。</p>					
事業の実施状況	<p>富良野市中高等学校経営連絡協議会 中学校・高等学校が生徒指導・進路指導などの今日的な教育課題について相互に連携し、富良野地区の高等教育の充実に向けて協議する。</p> <p>学力向上プロジェクトチーム 市教研及び上教研において、高校の教員も参加し相互連携を図り、併せて学力向上のための指導内容、方法の工夫改善等を研究する。</p>					
評価	達成度・効果度の検証					
		H20	H21	H22	H23	<p>富良野地区の子どもたちの学力向上に向けて、高校と中学校教頭による「学力向上プロジェクトチーム」を組織し、高校・中学校の授業を相互に参観し、中高の信頼関係を築くことができた。</p> <p>市教委主催による中学校関係者向け高校説明会を開催し多くの関係者(保護者含む)の出席により、中高が連携して行った取り組みとして意義あるものとなった。</p>
	達成度	A	A	A	A	
効果度	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	<p>学力向上プロジェクトチームによる中学・高校の接続の在り方の研究、学力向上のための指導内容・方法の工夫、改善の検討が必要。</p> <p>学力向上に向けて小学校との連携も必要である。</p>					
	改 善 策					
<p>学力向上プロジェクトチームによる、具体的な中高連携の検討、小グループ組織編制の検討を行う。</p> <p>より多くの教員が授業交流できるように検討する。</p> <p>中高の会議で話題となったことを小中の会議で伝えていく。</p>						

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課			
事務事業名	家庭教育支援事業					
事業の目的・概要	幼児、児童の保護者及び地域の人々を対象に、家庭や地域の教育力をより高めるため、子どもの基本的な生活習慣・自立心・自主性・耐性などを培うことについて、関係機関・団体と連携し、学習機会の充実を図る。	事業年度	開 始		終 了	
			平成9年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20 314	H21 290	H22 226	H23 168
前年度の課題	各学校・PTAとの連携により様々な学習機会を提供しているが、依然として家庭教育に無関心な保護者に対する各取組の参加促進方策や学習内容の向上は引き続きの課題であり有効な対策を講じていく必要がある。 父親の育児に対する関心も高まってきているので、父親がセミナーなどに気軽に抵抗なく参加できるような仕組みづくりが必要である。 家庭教育ハンドブックは乳幼児健診時、小学校入学説明会、参観日などでも積極的に活用し、家庭の教育力を高めることが必要である。					
当該年度の目標	家庭の教育力を高めるための学習機会の充実					
事業の実施状況	家庭教育セミナー(延4回 157名参加) ・布部地区「運動習慣で生活リズムを」10/30 27名 ・山部地区「思いは招く～夢があれば何でもできる～」12/16 70名 ・東山地区「子育てコーチング『子育てのゴールとは?』11/17 30名 「樹海地区ハートでトーク」12/6 30名 家庭教育講演会(延9回 198人参加) ・ママたちの寺小屋「子どもに学ぶ家庭教育講座」5/27～11/18 延6回 93名 ・「絵本との出会い～子どもの気持ちになって読み聞かせの体験～」7/19 49名 ・「演劇ワークショップ」11/29 32名 ・「ケータイ・インターネットのトラブルから子どもたちを守るために」2/15 24名 家庭教育ハンドブック(乳幼児編、小学低・中学年編、小学高学年・中学生編)の作成、配布 ケータイ、インターネットトラブル防止に関する小冊子の作成、配布					
評価		H20	H21	H22	H23	達成度・効果度の検証 家庭・地域の教育力向上につながっており、子育てに関する知識が増えるとともに、家庭教育の重要性について学ぶ場になっている。
	達成度	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	
今後組み	今 後 の 課 題					
	各関係機関、特に市P連との連携を通じて家庭教育に関する学習機会を提供しているが、家庭教育に関して関心の薄い保護者が依然としており、参加しやすい環境づくりと学習内容の検討が必要である。 育児や子育てに積極的に係る父親が増えつつあるが、セミナーや講演会に気軽に参加できる仕組みづくりが必要である。 家庭教育ハンドブックをはじめ、各関係機関で発行している冊子等を活用し、家庭の教育力を高めることが必要である。					
	改 善 策					
	引き続き多くの親が参加する機会を活用し、学習機会の提供やその内容の充実に努める。 父と子のふれあい交流を通じ、家庭教育への関心と参加を推進する。 家庭教育ハンドブック等の有効活用をはじめ、家庭教育に関する情報発信に努める。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課			
事務事業名	親と子のふれあい事業					
事業の目的・概要	家庭や地域の人々との共感的な人間関係を大切に して、心のつながりを深める活動を通して、子どもの 心身の発達を促す。	事業年度	開 始		終 了	
			昭和52年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
市民講座事業、図書館事 業に掲載						
前年度の課題	公民館事業、図書館事業で実施しているが、より多くの親子が参加できるように、事業内容を検討していく必要がある。					
当該年度の標目	家庭の教育力を高めるための学習機会の充実 親子で自然に親しみ、豊かな心を育てる共同体験機会の充実					
事業の実施状況	<p>市民講座【家庭教育・親子を対象にした講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子でケーキをつくっちゃおう 12/18 19名 ・オープン粘土でつくるアクセサリ 11/19~20(全2回) 延11名 ・ボックスアート 1/14 11名 ・メッセージクッキー 2/4 10名 <p>読み聞かせ(図書館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会 9回 延486名 ・どんぐりおはなし会 42回 延730名 ・えいごのおはなし会 10回 延323名 <p>こども図書館まつり 5/7~14 延2,847名</p>					
評価					達成度・効果度の検証 親と子がふれあう機会を通して、家庭教育の重要性を学ぶ場となっている。	
		H20	H21	H22		H23
	達成度	B	B	B		B
	効果度	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	公民館事業、図書館事業で実施しているが、親子の絆を深め、健やかな子育てを目指すために事業内容の充実を図るとともに、より多くの親子が参加できる機会の提供が必要である。					
	改 善 策					
	事業内容の検討を行い、一本化できる事業を調整しより多くの親子が参加できる機会を提供しながら事業展開を図る。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課			
事務事業名	子ども未来づくり事業(子ども未来づくりフォーラム)					
事業の目的・概要	子どもの立場から「まちづくり」に対する自由な発想や意見を出し合い、自主的に社会参加するとともに、市政に対する関心を高め、富良野市の未来を担う青少年を育成することを目的とする。	事業年度	開始	終了		
			平成19年度	継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			58	92	94	74
前年度の課題	募集に関しては学社融合推進事業として参加者を確保できたが、今後は、参加者の募集方法について、もっと広い地域から参加が得られるような募集のあり方を検討する必要がある。フォーラムに参加しやすい日程や内容の検討が必要である。					
当該年度の目標	豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実					
事業の実施状況	<p>過去4回のフォーラムを検証し、従来実施してきた「まちづくりに対する提言」に加えて5月に実施した「少年の主張大会」の上位入賞者の主張を行い、各校で取り組まれている特色ある学習活動を児童生徒が自ら発表する「学習実践発表」を行う三部構成で実施。平日開催と観覧のみ参加もあり、参加者数が増加した。</p> <p>子ども未来づくりフォーラム(11/29開催 発表者小中学生105名 観覧195名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習実践発表」7校71名(鳥沼小3・4年生19名、樹海小5・6年生18名、東小4年生12名、富小6年生5名、扇山小6年生9名、富良野西中3年生1名、富良野東中1・2年生7名) ・「少年の主張」少年の主張大会上位入賞者3名による主張発表 ・「未来への提言」山部小5・6年生31名が5グループに分かれてまちづくりへの提言を行った。 <p>参加校(観覧のみを含)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山部小、樹海小、扇山小、富良野小、東小、鳥沼小、富良野東中、富良野西中 					
評価					達成度・効果度の検証	
	達成度	B	A	A	A	学校における特色ある取組み・学習内容やまちづくりについて、子どもたちが自らの考えやアイデア等を発表する場となっている。子ども達の発想がまちづくりへ具体化しているものもある。
効果度	B	A	A	A		
今後の取り組み	今後の課題					
	<p>事業内容の企画と準備が同時進行であったため、学校への案内が遅れた。また、フォーラムの時間配分(休憩等)を考慮する必要がある。</p> <p>児童、生徒の興味、関心を持たせる事業として多くの発表の場面をつくり、表現力・コミュニケーション能力向上に結び付ける必要がある。</p>					
今後の取り組み	改善策					
	<p>計画的に事業内容計画と準備を行う。</p> <p>フォーラムの時間配分について、検討を行う。</p> <p>授業時数の確保もあるが、中学校の参加促進を図る。</p>					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課			
事務事業名	子ども会育成事業					
事業の目的・概要	異年齢集団である子ども会活動への参加奨励を図り、団体活動の基礎的知識や技術を学び、子ども会活動の活性化を図る。	事業年度	開 始		終 了	
			昭和38年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
1,033	1,034		1,012	1,022		
前年度の課題	子どもの減少により、子ども会が未組織の地区もある。団体活動の基礎的知識や技術をもった育成員の養成を図り、子ども会の活発化を図る必要がある。					
当該年度の標目	地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加の促進 家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備					
事業の実施状況	富良野市子ども会育成連絡協議会 ・単位数 23団体 ・会員数 1,094名 子ども会事業 ・リーダー研修会(前期)8/4~5 49名 山部太陽の里キャンプ場 ・リーダー研修会(後期)3/27~29 61名 国立日高青少年自然の家 ・シニアリーダー研修(青少年サークル)1/21~22 8名 国立大雪青少年交流の家 ・かるた大会1/15 11チーム34名 文化会館大会議室 ・ジュニアスノーフェスティバル(少年団本部と共催)2/25~26 59名布部小中学校 ・遊びの出前事業 延4回(青少年サークルを単位子ども会・地区子ども会へ派遣)					
評価	達成度・効果度の検証					
	達成度	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	子ども会への加入を働きかけているが、子どもの減少等により未組織の地区もある子ども会活動の基礎知識や技術をもった育成員の養成を図り、子ども会の活性化を図る必要がある。 リーダー研修会(夏季キャンプ)がマンネリ化の傾向にあることから、学校教育との連携を図る必要がある。					
	改 善 策					
子ども会加入の働きかけを継続するとともに、未組織地区の子ども達が事業に参加し、異年齢集団の体験ができるよう内容の充実を図る。 時代に対応する組織運営について助言を行うとともに、研修等を通じた育成員の養成を図る。 リーダー研修会にイングリッシュキャンプなどの事業を取り入れる工夫を検討する。						

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課			
事務事業名	青少年表彰事業					
事業の目的・概要	青少年（個人、団体）を対象に、青少年活動、社会活動及び家庭生活等において他の模範となる者を表彰する。 ・個人 おおむね30歳までの青少年で、次に掲げる活動を3年以上実践している者 ア)公共の福祉増進のための行為や努力した者 イ)生産性の向上や職場環境の改善などに貢献した者 ウ)地場産業の振興に貢献した者 エ)青少年団体の指導又は育成に貢献した者 ・団体 文化、教養、体育又は奉仕活動を目的としておおむね30歳までの青少年で構成されている団体に、堅実な活動を常時又は定期的に3年以上継続して行い、それぞれの活動の成果が著しく他の青少年の模範となる者。	事業年度	開始	終了		
			平成19年度		継続	
事業の目的・概要		事業費（決算） （単位：千円）	H20	H21	H22	H23
			30	30	36	46
前年度の課題	平成19年度より表彰規則の見直しを行い、団体も表彰の対象とした。今後も、個人、団体の両面から該当者を推薦してもらう必要がある。					
当該年度の目標	ふるさと意識を高める各種リーダーの養成					
事業の実施状況	富良野市青少年表彰式 ・11/23開催 文化会館大会議室 ・被表彰者 1個人・1団体					
評価					達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	他の模範となる青少年を表彰することにより、他の青少年の模範となる。
	効果度	B	B	B	B	
今 後 の 課 題						
今後の取り組み	個人、団体の両面から広く該当者を発掘し推薦してもらう必要がある。					
	改 善 策					
	各関係団体及び町内会、市民に対して広く該当者の推薦を募る。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課			
事務事業名	青少年補導センター運営事業					
事業の目的・概要	青少年が心身ともに健康で調和のとれた発達ができるよう、市民や関係機関・団体との連携により、青少年の健全育成を主眼とした非行の未然防止に努める。 ・補導員 市内小・中・高校の生徒指導担当教諭及び関係団体より補導員を推薦願い委嘱する。	事業年度	開 始		終 了	
			昭和50年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
183	197		173	153		
前年度の課題	子ども達のたまり場となりやすい「大型商業施設」、「ふらっと1階地域交流ホール」、「コンビニエンスストア」等を重点的に月3回程度巡回しているが、施設管理者からも日頃から注意指導が必要である。					
当該年度の目標	家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備					
事業の実施状況	補導員数 36名委嘱 街頭補導(富良野地区) ・実施数22回 延従事者75名 (山部地区) ・実施数1回 従事者5名 補導員会議(兼研修会) 文化会館中会議室 ・6/1開催 29名出席 広域補導 ・合同補導 北海へそ祭り祭典補導 7名(内2名広域補導連絡協議会) 買物公演街頭補導(旭川市) 1回実施 1名 ・列車添乗補導 2回実施(富良野~幾寅間) 延従事者4名					
評価					達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	街頭歩道の実施により、非行の未然防止の抑止力となる。	
	効果度	B	B	B		
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	子ども達のたまり場となりやすい市内の「商業施設」等を重点的に月3回程度巡回しているが、施設管理者との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める。					
	改 善 策					
学校、家庭、関係機関、施設管理者等とのネットワーク化と情報交換や連携を密にし、青少年の健全育成に努める。						

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課			
事務事業名	放課後子ども教室推進事業					
事業の目的・概要	放課後の子ども達の安全、安心な居場所を設け、子ども達に文化、スポーツ活動等の体験を通じて、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。 平成20年度 山部小学校児童対象で開設 平成22年度 樹海小学校児童対象で開設 平成23年度 布礼別小学校児童対象で開設	事業年度	開 始		終 了	
			平成20年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
		557	2,670	4,161	6,002	
前年度の課題	児童館が設置されていない地区での開設に向けて検討が必要である。					
当該年度の標目	地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加の促進					
事業の実施状況	<p>山部地区放課後子ども教室<会場：山部小学校></p> <ul style="list-style-type: none"> 登録児童数 64名 開設日数 185日 延 4,989名出席 <p>東山地区放課後子ども教室<会場：樹海小学校></p> <ul style="list-style-type: none"> 登録児童数 46名 開設日数 183日 延 5,976名出席 <p>布礼別地区放課後子ども教室<会場：布礼別小中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> 登録児童数 18名 開設日数 40日 延 642名出席 					
評価					達成度・効果度の検証 児童の安全、安心な居場所づくりと心豊かですやかに育まれる環境づくりに効果をあげている。	
		H20	H21	H22		H23
	達成度	B	B	B		B
		H20	H21	H22	H23	
効果度	B	B	B	B		
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	引き続き児童館が設置されていない地区での開設に向けて検討が必要である。					
	改 善 策					
	麓郷地区、鳥沼地区における開設を引き続き検討する。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課			
事務事業名	学社融合推進事業					
事業の目的・概要	学校、家庭、地域社会の教育力を結びつけ、富良野市の教育の充実と活性化をめざす「学社融合」を積極的に推進し、ゆとりと潤いのある学習社会の実現を図るとともに、平成23年度より学校支援地域本部事業機能を取り込んで、地域の教育力を活性化するため地域全体で学校教育を支援していく。	事業年度	開 始		終 了	
			平成11年度 (学校支援は平成20年度～)		継続	
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			461	497	322	441
前年度の課題	平成23年度からは学校支援地域本部事業の学校支援ボランティアにより、地域の教育資源を有効的に活用する必要がある。					
当該年度の標目	地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備 学習活動を支援するための情報提供や指導、相談体制の整備					
事業の実施状況	<p>富良野市学社融合推進委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進委員 21名委嘱(教頭会より推薦の幹事2名含む) ・委員会の開催 1回、事務局員会議の開催 1回 ・研修会の開催 2/21 80名 文化会館大会議室 「読書で子どもが育つ魔法のブッククラブ」 講師:国立教育政策研究所総括研究官 有元秀文 氏 ・市内小中学校における実践事例 171事業(内、132事業で学校支援ボランティアの活動) <p>学校支援ボランティアの登録数 286名(男性93名 女性193名) 家庭科補助 10名 体育補助 97名 読み聞かせ 91名 農園手伝 9名 環境整備 20名 自然科学・歴史 8名 食育 7名 パソコン3名 文学・文化 5名 学校行事支援 10名 登下校時の安全指導 106名 その他 32名 希望分野が複数の登録者あり</p>					
評価					達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	A	学校・家庭・地域社会が一体となり、地域教育活動を推進している。
	効果度	A	A	A	A	
今 後 の 課 題						
今後の取組み	学校支援地域本部事業の学校支援ボランティア等の地域の教育資源をより一層有効に活用する必要がある。					
	改 善 策					
	学校支援ボランティア等、登録分野の一層の活用促進と地域の教育資源の整備充実を図る。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	成人教育	担当課	社会教育課			
事務事業名	ふらの市民講座事業					
事業の目的・概要	多様化する学習要求に対応した講座や社会的課題に関する教室等を開設する。 中央公民館、山部公民館、東山公民館の3公民館の講座を連携して、「ふらの市民講座」として開設。	事業年度	開始	終了		
			平成16年度	継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			1,085	572	1,030	896
前年度の課題	趣味に片寄らない講座として市民活動を支援する内容の講座も開設しているが、人づくり・まちづくりの視点から必要とされる現代的課題や地域課題といった市民の必要課題の更なる検討が必要である。					
当該年度の目標	現代的課題や地域課題などの解決に向けた学習機会の充実と提供					
事業の実施状況	ふらの市民講座(延88回 1,612名参加) 中央公民館 ・子ども対象 ~ 3講座 延241名 ・成人対象 ~ 9講座 延539名 ・家庭教育(親子対象) ~ 1講座 19名 ・女性対象講座 ~ 1講座 延151名 ・自主企画講座 ~ 4講座 延506名 山部公民館・生涯学習センター ・成人対象 ~ 3講座 延52名 ・家庭教育(親子対象) ~ 3講座 延32名 東山公民館 ・成人対象 ~ 2講座 延51名 ・自主企画講座 ~ 1講座 21名					
評価		H20	H21	H22	H23	達成度・効果度の検証 講座終了後にアンケートを実施し、学習ニーズの把握に努めている。学習した成果を地域で生かすことにより地域の教育力の向上に寄与している。
	達成度	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない講座を開設している。市民生活の視点から必要とされる現代的課題や地域課題といった市民の必要課題について引き続き検討していく必要がある。					
	改 善 策					
今後の取り組み	市民の学習ニーズ及び現代的課題や地域課題を的確に把握し、魅力ある講座を企画する。					
	・現代的課題 ~ 社会生活を送る上でのさまざまな課題の中で、特に現代に生きる市民として学んでおくべき課題 ・地域課題 ~ 「まちづくり」、「家庭や地域の教育力向上」などに係る課題					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	高齢者教育	担当課	社会教育課			
事務事業名	ことぶき大学運営事業					
事業の目的・概要	自らの健康に気を配り、喜びと生きがいのある人生観の確立と家庭及び社会における高齢者としての役割を認識して、これまでの豊富な経験と知識を社会に生かすとともに、自らの生活向上に役立てる。 富良野校、山部校、東山校の3校が地域の実情に根ざした学習活動を展開している。	事業年度	開始	終了		
			昭和47年度	継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			1,014	1,011	951	808
前年度の課題	入学生の募集に努めているが、新入学生が減少しているため、その理由を調査し、学生の確保に努める必要がある。					
当該年度の目標	高齢者自身が学びあえる自主的な学習活動の推進 趣味、文化活動などのグループ、サークルの育成 自主的に学習する意欲を高める学習環境の整備					
事業の実施状況	<p>講話、クラブ学習、教科別学習など年間30日程度の学習を行なう 三校合同学習の実施：講話、運動会、主張実践発表交流会等</p> <p>在籍者数 本科48名、大学院29名、研究科7名 計84名 ・富良野校～学習日数 32日 本科 28名、大学院 24名、研究科 6名 計 58名(出席率88%) ・山部校～ 学習日 32日 本科 13名、大学院 2名、研究科 1名 計 16名(出席率93%) ・東山校～ 学習日数 30日 本科 7名、大学院 3名、研究科 0名 計 10名(出席率70%)</p>					
評価					達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	富良野校・山部校・東山校三校合同学習を行い、学習内容の統一と充実を図っている。 教科学習では専門的な講師陣による充実した学習活動を行っている。
	効果度	B	B	B	B	
今 後 の 課 題						
今後の取り組み	新入生の確保に努めているが入学生が減少傾向にあるため、引き続き学生の確保に努める必要がある。					
	改 善 策					
	魅力ある学習内容の検討と大学生生活の情報提供や公開学習日を設定し、ことぶき大学への理解を深めてもらう。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課			
事務事業名	富良野芸術文化事業協会事業					
事業の目的・概要	多くの市民に優れた舞台芸術及び芸術作品の鑑賞機会を提供し、地域の文化振興に役立てる。	事業年度	開 始		終 了	
			平成15年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
3,150	1,000		900	1,000		
前年度の課題	流行に左右されることなく、優れた舞台芸術及び芸術作品を市民に提供し、文化意識の向上を図る必要がある。					
当該年度の標目	文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 文化活動の指導者養成のための研修機会の推進					
事業の実施状況	鑑賞機会の提供 於:文化会館大ホール ・週末よしもとお笑いライブin富良野 6/19 来場者482名 ・国指定重要無形文化財「組踊」特別鑑賞会 7/16 来場者410名 ・ファミリーコンサート「音楽のおくりもの」公演 7/31 来場者230名					
評価					達成度・効果度の検証	
		H20	H21	H22	H23	市民の芸術にふれる機会を拡充し、文化意識の向上を図るためより良い舞台芸術を市民に提供するよう努力している。
	達成度	B	B	B	B	
効果度	B	B	B	B		
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	様々なジャンルの優れた舞台芸術及び芸術作品を提供し、地域に根ざした芸術文化の向上を図る必要がある。					
	改 善 策					
	各種文化団体(道文化財団等)との連携や情報交換等を行いながら事業展開を図る。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課			
事務事業名	子ども芸術鑑賞教室事業					
事業の目的・概要	児童生徒を対象に舞台芸術の鑑賞機会を提供し、情操教育と芸術文化の意識高揚を図る。	事業年度	開 始		終 了	
			昭和48年度		継続	
	事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23	
1,099		1,260	1,052	910		
前年度の課題	中学生は平成21年度に富良野GROUPのロングラン公演を鑑賞したが、平成22年度のロングラン公演内容が21年度と同一だったので、学校側の希望で上記の演目となる。今後は、ロングラン公演の鑑賞を再検討する必要がある。					
当該年度の目標	芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供					
事業の実施状況	舞台芸術鑑賞(小・中学生) ・「学校寄席」7/19・20 来場者延 1,919名(児童・生徒、教員、父母) 文化会館大ホール 落語 春風亭柳橋 曲ごま 三増紋之助					
評価	達成度・効果度の検証					
	達成度	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	鑑賞教室終了後の児童生徒へのアンケート調査と学校の希望により演目を決定している。今後は地元演劇グループ(富良野GROUP)のロングラン公演の鑑賞機会を検討する必要がある。					
	改 善 策					
	演目について、ロングラン公演も含めた協議を学校側と行う。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課			
事務事業名	市民総合文化祭事業					
事業の目的・概要	郷土芸術文化の成果を広く市民に発表する場を提供するとともに、一人一文化を奨励し文化意識の高揚に努め、文化団体の交流並びに文化の振興を図る。 富良野会場、布部会場、麓郷会場、山部会場、東山会場の5会場で開催。	事業年度	開 始		終 了	
			昭和41年度		継続	
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			476	471	472	462
前年度の課題	山部菊花展への出品者が減少している。 一般作品の出品者が減少している。 文化団体会員の後継者育成が必要である。					
当該年度の標目	文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 地域の文化活動を推進する文化団体との連携、協力の促進					
事業の実施状況	<p>第46回市民総合文化祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富良野会場 11/3～5 延来場者2,800名 文化会館 作品展示 1,335点 芸能発表388名 ・布部会場 11/3 延来場者70名 布部会館 作品展示 230点 芸能発表45名 ・麓郷会場 11/3 延来場者100名 麓郷小学校 作品展示 83点 ・山部会場 11/2～3 延来場者2,022名 生涯学習センター・山部福祉センター 作品展示 1,205点 芸能発表 65名 ・東山会場 11/2～3 延来場者530名 東山公民館 作品展示 382点 芸能発表142名 					
評価	達成度・効果度の検証					
	達成度	B	B	B	B	市民の芸術文化の発表の場を市民に提供し、文化団体の交流及び文化振興を図るため、5会場それぞれ地域性を生かした文化祭となっており、地域文化の振興に貢献している事業である。
	効果度	B	B	B	B	
今 後 の 課 題						
今後の取り組み	山部菊花展への出品者が減少している。 若い世代の参加を促す必要がある。 文化団体会員の後継者育成が必要である。					
	改 善 策					
今後の取り組み	菊づくり講習会を開催し、菊愛好者の増加を図る。 若い世代の市民が芸術文化に親む機会を拡充する。 広く市民に芸術文化の発表の場であることを周知するとともに、生涯学習の成果の発表の場であることを理解していただき、芸能発表・作品展示に多く方が参加されるよう努める。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課			
事務事業名	ふらの演劇祭事業					
事業の目的・概要	開庁100年を機に、次代に受け継ぐ事業として、過去から未来を学ぶ『演劇』を継続して実施している。「演劇のまち富良野」をめざし、市民、小中学生による演劇の発表の場として開催する。	事業年度	開 始		終 了	
			平成16年度		継続	
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			1,000	1,000	2,000	1,400
前年度の課題	多くの学校の参加により、毎年ローテーションで出演できるような体制が望ましい。新学習指導要領の実施により、授業で演劇に取り組む時数確保が難しくなっている。					
当該年度の目標	文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供					
事業の実施状況	第9回ふらの演劇祭 ・麓郷中学校「そしてプロローグ」 10/8 出演12名 来場298名 ・中富良野中学校「夢を信じて」 10/8 出演63名 来場268名 ・扇山小学校4年「なめとこ山の熊」 10/9 出演49名 来場179名 ・布礼別中学校「ごはんの時間」 10/9 出演10名 来場189名 ・市民劇「部長の人！」 10/10 来場321名					
評価					達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	市民に演劇祭が広く周知されてきており、毎年参加する学校は演劇力の向上はもとよりコミュニケーション能力の向上が見られる。また、全国学力学習状況調査結果から、参加している学校では国語力が向上している。
	効果度	B	B	B	A	
				今 後 の 課 題		
今後の取り組み	参加する学校数が限られており、多くの学校が参加できるような体制が望ましい。学校で演劇に取り組む十分な時間数の確保が困難。					
	改 善 策					
	今後も継続して「演劇のまち富良野」をめざし、継続して事業推進を図る。演劇指導を行っているふらの塾0Bと小中学校教諭との連携を図りながら事業推進を図る。演劇指導に係る授業時間の確保について、学校側で検討してもらう。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課			
事務事業名	舞台塾ふらの					
事業の目的・概要	舞台芸術の視野の拡大や人材の育成、幅広いネットワークの形成を促進するため、近隣市町村の関係団体と連携し「舞台塾ふらの事業」を開催する。	事業年度	開 始		終 了	
			平成15年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
1,500	1,500		1,500	1,500		
前年度の課題	北海道の負担金が予算の半額を占めており、道の事業継続決定が本事業の今後を左右する。					
当該年度の標目	文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 地域の文化活動を推進する文化団体との連携、協力の促進 文化活動の指導者養成のための研修機会の推進					
事業の実施状況	<p>演劇創造活動事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富良野塾OB舞台創造事業 9/30~10/28 参加数延286名 富良野演劇工場 <p>演劇に親しむ機会づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富良野塾OB巡回公演「ら抜き殺意」 10/29~11/11 来場者数延1,068名 上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村、富良野市 <p>時代を担う人づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/19 演劇リハビリテーション 参加数延91名 富良野市寿光園 ・2/15~16 パフォーマンス&パントマイムワークショップ 参加数延25名 富良野演劇工場 ・2/27~28 コミュニケーションワークショップ 参加数延 33名 富良野演劇工場 					
評価					達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	近隣市町村の舞台芸術の底辺を広げている。 実行委員会構成市町村(北海道、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村)からも事業実施の期待度は大きい。	
	効果度	B	B	B		
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	北海道の負担金が予算の半額をH22年度迄占めていたが、H23年度削減され、今後も削減傾向にある。道の事業継続の決定が本事業の今後を左右する。					
	改 善 策					
	各種補助金の活用を図るとともに自主財源(チケット収入)の確保を図る。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課			
事務事業名	スポーツ環境の整備					
事業の目的・概要	いつでも、どこでも、だれでもがスポーツに親しむことができる環境の整備を図る。	事業年度	開 始		終 了	
			継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
		5,153	6,544	5,612	4,882	
前年度の課題	NPO法人ふらの体育協会の体制整備と自主活動の推進が必要である。 スポーツ振興基金を充実させ、活用の推進を図る。 沿線スポーツ交流の推進を図る。 小・中・高校生のスポーツ活動が盛んなことから、多目的スポーツ施設整備を図る必要がある。					
当該年度の標目	四季を通じて、いつでも、どこでも、だれでもがスポーツレクリエーション活動のできる機会の提供 さまざまな媒体を活用した効果的なスポーツ情報の提供					
事業の実施状況	<p>水泳記録会開催等委託 11月13日開催 会場「ふらっと」 小中学生62名参加</p> <p>学校開放事業 市内小中学校13校開放(富良野小学校屋体改築工事のため4月のみ開放) 開放日 延1,476日、利用者数 延23,795名、利用団体数 40団体</p> <p>NPO法人ふらの体育協会補助 ふらの体育協会が主催するスポーツ活動等の支援(体育協会自主事業)</p> <p>少年野球国際交流事業補助 海外の少年野球チームと野球を通じた国際交流、更に野球技術の向上を図る。 (8月1日～7日実施、台湾高雄市大仁国民中学校、地元中学生4チーム 合計136名参加)</p> <p>その他事務経費 基金積立・各種負担金、消耗品費等</p>					
評価		H20	H21	H22	H23	
	達成度	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	
	達成度・効果度の検証 計画通り実践が進んでおり、NPO法人ふらの体育協会のスポーツ推進活動は、広く市民に浸透しつつあり、今後益々主体的な活動が期待されている。					
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	市民の健康維持増進を目的としたスポーツに関心を持つ中、対応すべくスポーツ推進体制強化並びに環境整備が必要。 NPO法人ふらの体育協会の体制強化及び自主活動並びにスポーツ推進活動が必要。 小中高校生のスポーツ活動が盛んなことから、競技力向上を目的とした環境整備が必要。					
	改 善 策					
	生涯スポーツの振興をNPO法人ふらの体育協会と連携強化し、いつでも、どこでも、だれでもが活動できる体制を図る。 小中高校生のスポーツ活動促進、アスリート育成、各種競技における競技力向上に向けたスポーツ環境整備を図る。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課			
事務事業名	人材及び団体育成					
事業の目的・概要	各スポーツ団体・サークルの活性化を図るために指導者等の人材育成と各団体の育成を図る。	事業年度	開 始		終 了	
			継続			
	事業費(決算) (単位:千円)	H20 2,368	H21 2,578	H22 828	H23 828	
前年度の課題	総合型地域スポーツクラブの活動支援を推進し地域づくりへとつなげる必要がある。各種団体の交流や連携により指導者及びリーダーの計画的な育成を推進し、活動の活性化を図る必要がある。 全道、全国大会出場者の増加に伴い、アスリートの育成を計画的に支援する必要がある。					
当該年度の標目	生涯スポーツ振興のためのスポーツ指導者及び団体の育成 地域づくりを目的とした総合型地域スポーツクラブの育成支援					
事業の実施状況	<p>体育指導委員活動事業費 市民の健康体力づくりを目的に体育指導委員を各地区に配置し、生涯スポーツの推進を図る。 各種競技会協力活動（へそマラソン・障がい者スポーツ大会・全国高校選抜スキー大会・小学生スパードッジボール大会等） 各種軽スポーツ指導普及活動（フロアーカーリング・キンボール） 山部体育振興会補助 各種スポーツ大会の実施・やまべゆきんこ祭り協力等 東山体育振興会補助 各種スポーツ大会の実施・樹海駅伝大会実施等 麓郷スポーツクラブ補助 各種スポーツ大会の実施・クロスカントリースキー講習会等の実施</p>					
評価	達成度・効果度の検証					
	達成度	B	B	B	B	地域スポーツ振興の促進を目的に体育指導委員を配置し、軽スポーツの指導普及活動が市民に浸透してきている。また、山部、東山、麓郷地区毎で実施されている各種スポーツ大会の開催等活発であり、市民の体力増進が図られている。
	効果度	B	B	B	B	
	H20	H21	H22	H23		
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	富良野市体育指導委員(平成24年度から富良野市スポーツ推進委員)とNPO法人からの体育協会との連携強化により生涯スポーツの推進を図る必要がある。 総合型地域スポーツクラブ並びに各地区体育振興会の活動支援を推進し、地域住民の体力増進、さらには、スポーツを通じた地域づくりの推進が必要。 各種団体の交流や連携により、各地区の指導者の育成を推進し、スポーツ活動等の活性化を図る必要がある。					
	改 善 策					
	各種団体や各地域の主體的なスポーツ活動を活性化するため、NPO法人からの体育協会と富良野市スポーツ推進委員と連携をとりつつ、いつでも、どこでも、だれでもがスポーツに親しむことができる体制づくりを推進する。 総合型地域スポーツクラブ及び地域体育振興会等の育成充実を図るとともに、リーダー及び指導者の育成を図る。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課			
事務事業名	スポーツ施設の整備及び管理運営					
事業の目的・概要	指定管理者等との連携によるスポーツ施設管理運営を推進する。	事業年度	開始		終了	
			継続			
	事業費(決算) (単位:千円)	H20 51,009	H21 59,479	H22 71,953	H23 68,394	
前年度の課題	施設の老朽化に伴う安全性の保持を推進する。 安全で適正な施設管理に努めるため、指定管理者と連携し人材の育成に努める。					
当該年度の目標	市民ニーズに対応するための民間活力の活用と各種団体との連携による事業の展開					
事業の実施状況	<p>体育施設管理 富良野市スポーツ施設指定管理(NPO法人富良野体育協会)、山部・東山屋外水泳プール管理、クロスカントリーコース整備(富良野スキー連盟)、陸上競技場第4種継続公認に伴う整備、屋外スポーツ施設管理用機械整備(乗用草刈機購入等)</p> <p>体育施設整備事業 河川ラグビー場整備用原材料購入 朝日ヶ丘総合公園多目的運動広場整備 朝日ヶ丘総合公園多目的運動広場整備設計測量調査・基本計画策定・完成予想図作成 有料パークゴルフ場運営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金満緑地公園パークゴルフ場指定管理(大北土建工業(株)) ・山部自然公園太陽の里パークゴルフ場指定管理(山部商業協同組合) ・東山パークゴルフ場指定管理(公益社団法人富良野市シルバー人材センター) 					
評価		H20	H21	H22	H23	達成度・効果度の検証 各施設の指定管理者により、施設利用に伴う安全性や施設運営の推進、更に施設利用者や市民サービスの向上が図られている。
	達成度	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	
今後組み	今 後 の 課 題					
	適正な施設管理の実施、かつ安全に施設利用ができるよう、体育施設設置者である富良野市とNPO法人からの体育協会並びに各指定管理者と連携を図り、体育施設を整備する必要がある。					
	改 善 策					
	体育施設の計画的な施設整備を図るため、NPO法人からの体育協会や各施設の指定管理者と連携を図り推進する。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課			
事務事業名	競技スポーツの育成					
事業の目的・概要	幼児から高齢者まで自ら楽しむ「実践スポーツ」、見て楽しむ「応援するスポーツ」、ボランティアで楽しむ「協力するスポーツ」を实践し、それぞれのライフステージにおいて競技スポーツの育成振興を図る。	事業年度	開始		終了	
			継続			
前年度の課題	競技大会公認施設の維持管理を推進する。 ボランティアスタッフの養成確保を推進する。 長期的な選手育成体制づくりと指導者の養成を推進する。	事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			8,417	10,851	8,800	6,000
当該年度の目標	四季を通じて、いつでも、どこでも、だれでもがスポーツレクリエーション活動のできる機会の提供					
事業の実施状況	<p>道知事・上川教育局長・市長杯麓郷クロスカントリー大会補助 平成24年2月12日(日) 麓郷クロスカントリーコース 参加者193名</p> <p>麓郷ラングラウフ大会補助 平成24年3月11日(日) 麓郷の森 参加者253名</p> <p>セルジュラング杯小学生ジャイアントスラローム競技大会補助 平成24年2月25日(土) 富良野スキー場北の峰ゾーン 参加者45名</p> <p>第13回富良野市長杯スーパージャイアントスラローム大会補助 平成24年3月7日(水)～8日(木) 富良野スキー場富良野ゾーン 参加者226名</p> <p>ジュニアスノーフェスティバル補助 平成24年2月25日(土)～26日(日) 布部小中学校 参加者59名</p> <p>第24回全国高等学校選抜スキー大会(アルペン種目) 平成24年3月8日(木)～11日(日) 富良野スキー場富良野ゾーン 参加者延774名</p>					
評価	達成度・効果度の検証					
	達成度	A	A	A	A	富良野市の地域特性を活かした大会の開催と誘致により継続的な大会開催を実施しており、地域活性化も図られている。特に全国高等学校選抜スキー大会開催は、富良野市開催8回目であり、「スキーのまちふらの」を実現している。
効果度	A	A	A	A		
今後の取り組み	今後の課題					
	<p>競技大会公認施設の継続公認並びに維持管理の推進。 競技大会開催に伴う、競技役員等ボランティアスタッフの育成確保の推進。 各種競技の選手育成強化と連動した各種競技大会開催の推進、並びに各種競技の指導者育成推進。</p>					
今後の取り組み	改善策					
	<p>各種公認競技大会開催に伴う公認競技場の公認継続。 各種競技会開催に伴い、NPO法人ふらの体育協会の体制強化。(加盟競技団体の協力)</p>					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課			
事務事業名	アスリート育成派遣事業					
事業の目的・概要	子ども達のスポーツ活動が盛んとなるに従い、全道、全国、世界（国際）大会へ出場する機会が増え、市民に夢と感動を与えるとともに本市の大きな財産となっている。このため、将来のアスリートを育成するために大会派遣費の一部を補助する。	事業年度	開 始		終 了	
			平成23年度		継続	
事業の目的・概要		事業費（決算） （単位：千円）	H20	H21	H22	H23
						3,628
前年度の課題	【新規点検・評価事業】					
当該年度の標目	全道、全国、世界（国際）大会に出場する子ども達に対し、派遣費の一部を補助し、将来のアスリートを育成する。					
事業の実施状況	<p>全道大会 5大会 全日本少年軟式野球北海道大会、全日本学童軟式野球大会北海道予選大会、全日本バレーボール小学生大会北海道大会、全日本少年春季軟式野球北海道予選会、秋季北海道高等学校野球大会</p> <p>全国大会 11大会 全国中学生少林寺拳法大会、全日本少年少女空手道選手権大会、全国小学生バドミントン選手権大会、国体(高校ラグビー-選手)、全日本スキー選手権大会アルペン競技、2012全日本ジュニアスキー選手権大会、FISアイスクラブジャパニーズ2012志賀高原カップ、全国小学生ラグビー選手権大会、春の全国小学生ドッジボール大会（男女）、JOCジュニアオリンピックカップ、全国スキージュニア競技会</p> <p>世界（国際）大会 3大会 フルタイムスライダカップ2011、日台親善国際交流u-15軟式野球大会、アルペンフルタイム遠征選手強化事業 2事業 全日本スキー連盟アルペンフルタイム合宿、北海道スキー連盟アルペン強化事業(海外大会転戦)</p>					
評価		H20	H21	H22	H23	達成度・効果度の検証 各種競技スポーツにおいて、全道、全国、世界（国際）大会等に出場する選手の増加がみられ、今後の競技力向上が期待される。
	達成度				A	
	効果度				A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	小中高校生の各種競技スポーツ活動が盛んであり、全道・全国・世界（国際）大会等の競技会に参加する選手が数多くみられることから、競技力向上を目的とした、アスリート育成派遣等スポーツ競技の環境整備が必要。					
	改 善 策					
小中高校生のスポーツ競技活動促進、アスリート育成、各種競技における競技力向上に向けた競技スポーツの環境整備を図る。						

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課、学校教育課			
事務事業名	子どもスキー技術向上支援事業					
事業の目的・概要	冬期間における小中学生の体力向上、スキー技術向上のため、富良野スキー場リフト搭乗無料券を配付するとともに、小中学校のスキー授業にインストラクターを派遣し、スキー技術の向上を支援する。	事業年度	開 始		終 了	
			平成23年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
				14,732		
前年度の課題	【新規点検・評価事業】					
当該年度の目標	冬期間の小中学生の体力向上、スキー技術の向上を図る。					
事業の実施状況	<p>富良野スキー場リフト搭乗無料券配付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付～小中学生 1,960名(対象者2,000名、配付率98%) <p>スキー授業インストラクター派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小学校(9校)と山部中学校以外の中学校(6校)のスキー授業に派遣。 ・延60回の派遣 ・派遣インストラクター人数～延159名 					
評価		H20	H21	H22	H23	達成度・効果度の検証
	達成度				A	
	効果度				A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	スキー授業インストラクター派遣において、インストラクター単独による指導希望もあり今後、指導体制、指導方法等について検討する必要がある。 全国体力運動能力調査結果から「長座体前屈」がやや劣っており、スキー授業等を通じて柔軟性を高め、基礎体力をつける必要がある。					
	改 善 策					
	スキー授業インストラクター派遣におけるインストラクター単独による指導について学校及び関係者と協議する。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	文化財保護	担当課	生涯学習センター			
事務事業名	文化財保護啓蒙・普及活動					
事業の目的・概要	市内外の文化財、史跡、博物館の見学など文化財保護のための啓蒙・普及活動を推進する。 郷土に伝承された民俗芸能を保護し、その活動の奨励に努める。 民俗芸能の活動拠点施設の効果的運用を図る。	事業年度	開始	終了		
			昭和43年度	継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
			993	814	995	918
前年度の課題	明治から昭和初期の歴史・文化・産業を物語る歴史的建造物が年々消滅しており、文化財的な評価を含めて記録保存のための基礎的な調査が急務である。					
当該年度の標目	文化財保護のための啓蒙、普及活動の推進 民俗芸能、文化財保護団体の育成、指導者の養成、後継者の確保 民俗芸能の活動拠点施設の効果的運用					
事業の実施状況	博物館・史蹟見学会の開催(札幌市1回) 埋蔵文化財保護のための事前調査及び分布調査 市指定文化財の保護 「富良野獅子舞」、「北海道中央経緯度観測標」、「北海道大学第八農場富良野成壘記念碑」、「北海道大学第八農場山部成壘記念碑」 富良野獅子舞保存会、富良野弥栄太鼓保存会、山部獅子舞保存会への補助 富良野蒸気機関車保存会へ交付金 郷土芸能伝習館の円滑、効果的な管理運営 富良野市歴史的建造物調査事業の実施 (第一次調査の実施、調査対象物件の台帳整備約300件)					
評価					達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	郷土の歴史・文化の理解、文化財保護思想の普及啓蒙に成果をあげている。 民俗芸能の継承に一定の効果をあげている。 市内に遺された築50年以上の建造物をリストアップし、記録保存できる状況を整備しつつある。
	効果度	B	B	B	B	
				今後		
今後の取り組み	歴史的建造物第一次調査でリストアップした建物の中から、100件程度を抽出し、写真撮影、図面作製、聞き取り調査などの詳細調査を実施し、基礎的な記録保存に努めなければならない。					
	改善策					
	今後2か年をかけて建造物調査を実施し、報告書を刊行する。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター			
事務事業名	博物館活動推進事業					
事業の目的・概要	博物館活動（教育・普及）を推進する。	事業年度	開 始		終 了	
			昭和43年度		継続	
		事業費（決算） （単位：千円）	H20	H21	H22	H23
1,304	1,142		1,168	1,220		
前年度の課題	市民生活・地域課題に関連したテーマや市民の学習ニーズに応じた博物館活動を積極的に展開する必要がある。 美術アート系の講座は児童・生徒の参加が多く好評であり、その学習機会と内容の充実が求められる。					
当該年度の目標	博物館活動（教育・普及）の推進 専門的な知識を有する人材の確保と養成					
事業の実施状況	博物館歴史講演会の開催（講演会「アイヌ絵を読む」1回） 特別展、企画展等の開催 （アート展「遊・美・術」、写真展「My Nature～ぼくの自然」） 富良野アートギャラリー展（「ココロって不思議」、「どこか懐かしい風景」） アート講座（「アートを楽しもう」4回、ワークショップ「遊・美・術」1回） 学校の総合的な学習、社会、理科、生活科の指導、支援 （山部小、鳥沼小、樹海小、富良野小、扇山小、南富良野高） 博物館資料貸出しキット「みゅーじあむ・ぼっくす」の活用及び資料貸し （富良野小、布部小、山部小、扇山小、銀行1件・ホテル1件） 『ふらの博物誌』の日刊富良野紙上への連載（富良野市郷土研究会との共催）					
評価					達成度・効果度の検証	
		H20	H21	H22	H23	
	達成度	B	B	B	B	
	効果度	B	B	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	市民生活・地域課題に関連したテーマや市民の学習ニーズに応じた博物館活動を積極的に展開する必要がある。 美術アート系の講座は児童・生徒の参加が多く好評であり、その学習機会と内容の充実が求められる。					
	改 善 策					
	講座、講演会については、時代のニーズ、市民ニーズに応じた事業展開を図る。 特別展・企画展は、市民・団体参加型の企画を推進する。 美術アート系講座は、絵画の基礎技術の習得にとどまらず、様々な画材を用いるなど工夫をこらす。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター			
事務事業名	自然体験・環境学習事業					
事業の目的・概要	自然や環境への理解を深める取組を推進する。自然体験学習や森林を活用した事業を実施する。	事業年度	開 始		終 了	
			昭和51年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
前年度の課題	絶滅危惧種のヒメギフチョウなどの希少種の保護活動や在来種を害する特定外来種のおオハンゴンソウの除去活動などを通して、学校・地域で地域の自然や環境に理解を深める必要がある。					
当該年度の標目	自然とふれあう体験学習・環境学習の推進 専門的な知識を有する人材の確保と養成					
事業の実施状況	自然観察会の開催（「富良野の自然に親しむ集い」4回：ヒメギフチョウ観察会・ホテル観察会・流星観望会・地質見学会、「富良野の木に会う」1回） 自然をテーマとした講演会の開催 (2回：「クスサン大発生から読み解く森からのメッセージ」「富良野の自然って何?） ふらの森の教室の開設（展示、自然観察ガイド、木工クラフト） 遊々の森「太陽の里・ふれあいの森」自然観察路の活用と整備 （上川南部森林管理署との協定） 学校等の環境教育への指導・協力 （鳥沼小7回、山部小6回、樹海小4回、富良野西中1回、南富良野高1回） 特定外来生物おオハンゴンソウの防除（鳥沼公園） ホテルの里づくり（太陽の里アスレチック広場：植樹、環境整備）					
評価					達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	郷土の身近な自然や森林の中で自然体験活動を実施することによって、市民の環境教育に大いに寄与している
	効果度	B	B	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	身近な自然環境に生息する生き物の調査や体験活動を通じて、地域の自然や環境に対する理解を深める必要がある。 自然体験活動を推進する人材の確保、育成に努める必要がある。					
	改 善 策					
希少な湿性林と多種多様な生き物が生息する鳥沼公園で、市民とともに生物分布調査を継続的に実施して人材育成に努めるとともに、標本作成と調査記録の保存を行い、データの集積を図る。 開拓以前の自然が残る鳥沼公園の自然環境を保全するために、団体・ボランティアの協力により、おオハンゴンソウの防除活動を実施する。						

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	市立富良野図書館			
事務事業名	図書館運営管理事業					
事業の目的・概要	<p>【目的】図書館の適切な維持管理と市民に対する読書活動等とおした生涯学習の場の提供</p> <p>【概要】 図書館の運営 (開館日・時間 = 火～金曜日：10時～18時 土・日曜日：9時～17時) 利用者団体・ボランティア団体等への施設貸出 図書館利用促進のためのイベント主催 インターネット端末の設置(2台) 図書館情報のインターネットによる提供</p>	事業年度	開 始		終 了	
			昭和47年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
				20,421	21,634	22,630
前年度の課題	図書館利用サークル、読書推進ボランティアの育成及び団体間の連携を維持発展させる必要がある。 社会の情報化に対応する情報発信機能の充実が必要。 施設の適切な維持管理及び修繕改修による快適な施設の管理運営。					
当該年度の標目	利用者の利便性の向上と施設利用の促進 適切な維持管理による快適な施設環境づくり					
事業の実施状況	図書館の運営 開館日数283日 利用状況 多目的ホール・サークル室：249回延べ4,370名 展示ホール：15回140日延べ7,027名 図書館まつり 期間：10月5日～29日、来場者数11,565名 (図書館利用の促進のため、市民・利用者同士の交流の場作りを実行委員会形式で実施。) 図書館情報の閲覧状況 = アクセス数217,533件					
評価		H20	H21	H22	H23	達成度・効果度の検証 図書利用登録者は年々増加し、生涯学習の場として市民参加・ボランティアとの協働による施設の有効活用が進み、来館者数も毎年11万人を超えている。
	達成度		A	A	A	
	効果度		A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	図書館利用サークル、読書推進ボランティアの育成及び団体間の連携を維持発展させる必要がある。 社会の情報化に対応する情報発信機能の充実が必要。 施設の適切な維持管理及び修繕改修による快適な施設の管理運営。 図書館情報システム機能の旧式化及び信頼性低下。					
	改 善 策					
	図書館利用サークル及び読書推進ボランティアの活動状況について、地域住民への情報提供、図書館ボランティア制度の充実を図る。 インターネット活用による図書館情報提供の充実、図書館内における情報端末の充実を図る。 計画的な施設修繕及び利用目的に適合した改修による快適な環境整備 図書館情報システムの更新(平成24年度)					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	市立富良野図書館			
事務事業名	図書資料整備事業					
事業の目的・概要	【目的】地域住民の生涯学習の基礎となる図書資料の収集・提供 【概要】社会情勢・利用者ニーズ・地域特性に対応した新刊書・新聞雑誌等の選択と収集 視聴覚ライブラリー資料の収集 (富良野地区視聴覚教育協議会)	事業年度	開 始		終 了	
			昭和47年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
				6,113	6,300	6,035
前年度の課題	図書館の蔵書は常に新鮮で適切な資料構成を維持する必要がある。 富良野沿線他町村の利用者・貸出冊数も増加しており、それらのニーズに応えるための他町村図書館との連携強化が必要である。 視聴覚資料の利用が伸び悩んでいるため、利用者ニーズに適合した収集内容の再整理が必要である。					
当該年度の目標	社会情勢・地域住民のニーズに適合した図書資料整備					
事業の実施状況	購入書籍 = 一般書2,693冊、児童書2,329冊、雑誌1,050冊、新聞9紙 利用者の学習及び調査研究のための参考図書専門的資料の収集 地域の郷土資料及び行政資料の積極的な収集による地域の特色ある知的財産の蓄積 視聴覚教材購入 = DVDソフト56本					
評価		H20	H21	H22	H23	達成度・効果度の検証 社会情勢・利用者ニーズを把握し、様々な図書情報を活用する中で適切に新刊書を選択と収集を行っている。
	達成度		B	B	B	
	効果度		B	A	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	図書館の蔵書は常に新鮮で適切な資料構成を維持する必要がある。 富良野沿線他町村の利用者・貸出冊数も増加しており、それらのニーズに応えるための他町村図書館との連携強化が必要である。 視聴覚資料の利用が伸び悩んでいるため、利用者ニーズに適合した収集内容の再整理が必要である。					
	改 善 策					
	利用者のニーズに的確に応えつつ図書資料の鮮度を維持し、バランスの取れた図書資料の整備を図るため、適切な更新と除籍を進める。 富良野地区広域教育圏振興協議会に設置された図書館連携専門部会において、図書館情報ネットワーク・相互貸借システムの実用化を推進する。 視聴覚教育協議会において、社会の情報化・情報機器の発達に伴う視聴覚資料収集のあり方を再検討し、ニーズに適合した資料収集に努める。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	市立富良野図書館			
事務事業名	読書活動推進事業					
事業の目的・概要	【目的】市民の生涯学習の基礎となる図書資料及び図書情報の提供 【概要】図書資料情報の多面的な提供と積極的な貸出相互貸借システムの活用による他図書館との連携貸出	事業年度	開 始		終 了	
			昭和47年度		継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
前年度の課題	社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供が課題である。 高齢者の利用者1人当たり貸出冊数が減少傾向にあり、視力低下などが原因との意見が利用者から出されている。					
当該年度の目標	読書活動の推進					
事業の実施状況	インターネット図書検索システム、館内テーマ展示、図書館だより、広報紙による情報提供 リクエスト数=2,965冊 相互貸借：他図書館からの借受=781冊、他図書館への貸出=314冊 録音図書315本、大活字本215冊購入					
評価					達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	市民一人あたりの貸出冊数(6.35冊)が高い水準にあり、利用登録者数も(12,872人、前年比787人増)着実に増加している。	
	効果度	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供が課題である。					
	改 善 策					
インターネットや専門誌など様々な媒体を活用し図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。 相互貸借システムの活用による他図書館との連携貸出を促進する。						

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	市立富良野図書館			
事務事業名	子どもの読書推進事業					
事業の目的・概要	<p>【目的】すべての子どもたちが読書に親しみ、いつでもどこでも本と出会い読書ができる環境づくり</p> <p>【概要】 ブックスタート（乳幼児7か月健診時） おはなし会・絵本読み聞かせ会の開催 こどもの図書館まつり 学校図書館支援（ブックトラック事業） ブックフェスティバル（道立図書館からの大量貸出）</p>	事業年度	開始	終了		
			昭和47年度	継続		
事業費（決算） （単位：千円）			H20	H21	H22	H23
						385
前年度の課題	<p>より効果的な読書推進のためには、周産期からの読書啓蒙及び乳幼児からの読み聞かせの実践が必要である。 学校図書館の蔵書管理を適切に実施できるようデータベース化を進める必要がある。 学校間の児童書の共有化を進め図書不足を解消する必要がある。</p>					
当該年度の目標	家庭・地域（ボランティア）・学校・行政の連携による子どもの読書活動のための環境づくり					
事業の実施状況	<p>ブックスタート＝12回実施、218人参加、ボランティア団体、図書館司書の共同実施 おはなし会の開催＝9回開催、参加者486人、ボランティア団体4団体の協力 絵本読み聞かせ会の開催＝42回開催、参加者730人、お話の会「どんぐり」の協力 こどもの図書館まつり＝5月7～14日、来館者2,847人、実行委員会主催 学校図書館支援＝ブックトラック事業：全小学校3,918冊、団体貸出：8,014冊 ブックフェスティバル＝市内7小学校、3,758冊</p>					
評価	達成度・効果度の検証					
		H20	H21	H22	H23	
	達成度		A	A	A	
効果度		A	A	A		
<p>児童1人当たり貸出冊数（17.8冊、前年比1.9冊増は、北海道子どもの読書推進計画目標12.6冊を大きく上回っており、児童の図書館利用登録者数も増加している。 全国学力学習状況調査結果から、小・中学校とも国語科の「読むこと」の区分で正答率が高い傾向にあり、図書館と学校の連携により読書活動が好影響を与えている。</p>						
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	<p>より効果的な読書推進のためには、周産期からの読書啓蒙及び乳幼児からの読み聞かせの実践が必要である。 学校図書館の蔵書管理を適切に実施できるようデータベース化を進める必要がある。 学校間の児童書の共有化を進め図書不足を解消する必要がある。</p>					
	改 善 策					
<p>母子手帳交付時や出生届時に読書啓蒙小冊子を配布し、家庭における読み聞かせ啓蒙や図書館利用情報の提供等を推進する。（継続） ブックスタート（平成23年4月開始）の継続。 ブックトラック事業の拡充（分野別、利用者別トラックの配置）により、図書の共同利用と内容の充実に努める。</p>						

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター			
事務事業名	安全安心な学校給食の提供					
事業の目的・概要	衛生管理の徹底を図るとともに、経年劣化した調理機器等の更新など施設設備の整備を促進し、食中毒の発生や異物混入の防止を図り、安全で安心な学校給食の提供に努めるとともに、給食の安定した供給を図る。	事業年度	開 始		終 了	
					継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
	253,840		252,829	250,611		
前年度の課題	移転改築から12年を経過し、大型調理機器等に経年劣化がみられ計画的な設備、器機の更新が必要である。 夏場は、猛暑続きとなり、喫食まで適切な温度管理(10以下)が必要な和え物等食品の提供が危惧される。 食品製造委託業者及び食品納入業者の衛生管理意識向上が課題である。					
当該年度の目標	安全・安心な学校給食の推進 安定した給食の供給					
事業の実施状況	小学校17校中学校10校に年間195食を基準として米飯週3回パン・麺週各1回の給食を提供 「学校給食衛生管理の基準」を順守した学校給食の運営 学校給食献立委員会による献立内容の改善と協議(10回開催) 学校試食会での保護者アンケートの実施 調理員及び食品納入業者の衛生管理研修会の実施(調理員:学期毎3回、納入業者との合同研修会1回実施、講師:富良野保健所) 施設設備及び調理機器等の整備 食器の更新 うどん丼 3,300枚(4か年計画終了) 3,066,000円 グランドケトル攪拌装置改修 2台 1,461,600円 保冷剤付冷・温バット購入 } 3,078,000円 " 冷凍冷蔵庫・カート購入					
評価	達成度・効果度の検証					
		H20	H21	H22	H23	食器の更新や懸案だった保冷剤セットの冷却用バットに切り替え、適切な温度管理が可能となり、より安全な給食の提供が可能となった。
	達成度		B	B	B	
効果度		A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	今後とも継続し、計画的な設備、機器の更新が必要である。(継続)					
	改 善 策					
	設備、器機の計画的な更新により、給食の安定供給を図る。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター			
事務事業名	「富良野ふるさと給食」の実施					
事業の目的・概要	地元でとれた旬の食材や特産品を子どもたちに伝え食べ物が身近になることで「地産地消」の意味や意義を学習し、食の大切さや食材の生産・加工・流通を学ぶ機会とする。 ・地場の食材 9割使用 ・学校農園野菜の活用 ・地産地消の啓発	事業年度	開 始		終 了	
					継続	
前年度の課題	調味料を除く原料の9割を地元産で賄う「ふるさと給食」の実施は、3市町村に配慮した献立作成や食材の確保などに栄養士の苦慮がうかがえる。児童生徒も楽しみにしているため学校行事を回避し、実施時期を10月下旬としたが、地場野菜の収穫時期には遅すぎるなどの新たな課題も出てきた。	事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
当該年度の標目	食の大切さや感謝する心を育む食育の推進 地産地消の推進					
事業の実施状況	時期を1週間早め10月11日～14日実施(5日 4日) 学校農園野菜の活用 「給食だより」による地産地消の啓発 ふるさと給食特別号「みんなで食べよう!旬な味～半径41.9kmの恵～」発行 終了後アンケートの実施					
評価		H20	H21	H22	H23	達成度・効果度の検証 「ふるさと給食」は、毎年児童生徒の期待も大きく残食も少ないなど「食育推進」「地産地消」に有効である。
	達成度		A	A	A	
	効果度		A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	地場産野菜の収穫時期に合わせ9月末か10月上旬に実施を予定したが、27校の学校行事や秋の研修会等があり、実施日の確保が難しい。 ふるさと給食では、この期間の米飯は中富良野産の3種類(ほしのゆめ・ななつぼし・おぼろづき)の使用が可能であったが、JA統合等により困難となったため、独自の開拓が必要と思われる。					
	改 善 策					
	3市町村の農政課と連携し、協力いただける農家の情報を収集し、魅力ある「ふるさと給食」の実施を図りたい。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター			
事務事業名	食に関する指導の推進					
事業の目的・概要	学校給食を「生きた教材」として活用し、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通して自らの健康管理ができるようにする。また、楽しい食事や給食活動を通じ豊かな心を育成する。 ・栄養教諭による食の指導 (配置校・未配置校)	事業年度	開 始		終 了	
					継続	
前年度の課題	給食センター栄養士と学校栄養教諭の二つの役割は、業務が加重負担になっている。配置校では、全教室への食育指導を目標に指導を行ってきたが、未配置校25校の食に関する指導が課題である。 食育は、食べ残しゼロ運動も含めて長期にわたる指導が必要であり、養護教諭との連携を図りながら、今後も継続して指導を推進することが必要。	事業費(決算) (単位:千円)	H20	H21	H22	H23
当該年度の目標	食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける 「食べ残しゼロ運動」の推進					
事業の実施状況	年間指導計画の作成及び給食だよりの発行 栄養教諭未配置校の食の指導(4校 9校:扇山小、東小、麓郷小、布部小、布部中、布礼別小、布礼別中、西中小、占冠中央小) 社会見学、施設見学における食の指導(2校:鳥沼小、中富小) 北海道主催事業「北の海のめぐみ-食育推進事業」 11月9日 富良野小 標津漁協による出前講座					
評価		H20	H21	H22	H23	達成度・効果度の検証 富良野小学校、富良野西中学校には栄養教諭を配置して職の指導を行っているが、市内大規模校の扇山小学校、東小学校の全クラスに食の指導を行ったことは、大きな前進であり、継続しての実施が望まれる。
	達成度		B	B	B	
	効果度		B	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題					
	給食センター栄養士と学校栄養教諭の二つの役割は、業務が加重負担になっている。配置校では、全教室への食育指導を目標に指導を行ってきたが、未配置校の中学校での食の指導はなかなか進まない。 食育は、食べ残しゼロ運動も含めて長期にわたる指導が必要であり、養護教諭との連携を図りながら、今後も継続して指導を推進することが必要。					
	改 善 策					
	道教委に、栄養教諭の増員配置を引き続き要請していく。 養護教諭との連携を強化して食に関する指導の推進を図っていく。 栄養教諭未配置校の食に関する指導は、学校からの指導依頼には随時対応していく。					

平成23年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター																							
事務事業名	学校給食費の徴収																									
事業の目的・概要	給食費の徴収については、国が「子ども手当」から天引きできる仕組みを講じたことから、その活用を図りながら給食費滞納の未然防止に努め、円滑な学校給食の運営を図る。	事業年度	開 始		終 了																					
			H20	H21	H22	H23																				
		事業費(決算) (単位:千円)																								
前年度の課題	【新規点検・評価事業】																									
当該年度の目標																										
事業の実施状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>未収入額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23年度給食費</td> <td>155,370,011</td> <td>155,268,272</td> <td>101,739</td> <td>99.93</td> </tr> <tr> <td>過年度給食費</td> <td>451,497</td> <td>306,916</td> <td>144,581</td> <td>67.98</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>155,821,508</td> <td>155,575,188</td> <td>246,320</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>					区 分	調定額	収入済額	未収入額	収納率	23年度給食費	155,370,011	155,268,272	101,739	99.93	過年度給食費	451,497	306,916	144,581	67.98	合 計	155,821,508	155,575,188	246,320	—	
	区 分	調定額	収入済額	未収入額	収納率																					
23年度給食費	155,370,011	155,268,272	101,739	99.93																						
過年度給食費	451,497	306,916	144,581	67.98																						
合 計	155,821,508	155,575,188	246,320	—																						
	「子ども手当」からの天引き申出額 総額 113,851円(3件:現年度)																									
評価		H20	H21	H22	H23	達成度・効果度の検証 電話、文書での督促に加え、夜間に滞納家庭を訪問し、徴収に努めた。また、子ども手当からの天引きに理解を求め、滞納の未然防止に努め高い収納率となった。																				
	達成度				A																					
	効果度				A																					
今後の取り組み	今 後 の 課 題																									
	給食費の収納率は、ここ数年99.7%～99.8%と高い水準となっている。未納となる世帯への回収について引き続き学校とも連携を図り進める必要がある。																									
	改 善 策																									
	学校と連携をとり、早めに家庭状況を把握しながら「子ども手当(24年度より児童手当)」からの天引き徴収に理解を求め、滞納防止に努める。																									

平成 23 年度 学校第三者評価

学校自己評価及び学校関係者評価並びに学校訪問等に基づき、各委員から出された項目に対する意見をまとめ、委員の意見に対し改善策を示した方が良いと思われる項目に対しては、教育委員会の改善方策を記載する。

なお、自己評価値は、評価基準を「4：実践が進み成果を上げている 3：実践が進んでいる 2：実践につとめている 1：努力を要する」の4段階とし、各学校において評価した自己評価値の全学校の平均値を記載している。

評価領域	観	点	自己評価(平均)
組織運営 等の状況	<項目：学校の組織運営の状況>		
	1	職員会議等が学校運営において有効に機能しているか	3.6
	2	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、サービス管理が適切に行われているか	3.6
	評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・1については、学校運営の結果よりの判断となり、評価そのものは難しいところであるが、各自の問題意識や情報の共有の場としての役割が果たされることが望ましい。 ・2については、規程や管理が徹底されることは当然としても、教員が行政職ではなく教育職であるという役割そのものについての周知や理解も必要と考える。また、研修についても承認や管理をすると同時に時間確保や適切な情報提供なども保障されなければならない。 	
	<項目：学校と設置者の連携の状況>		
	1	設置者の示す明確な教育方針等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか	3.6
	2	学校と設置者が、児童生徒の状況や安全管理等に関する情報を適切に共有しているか	3.6
	評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・1については、各校が前向きに熱心に取り組んでおり、計画や目標設定が整備され、わかりやすいものになってきている。今後はこれらに則しての各自の創意や相乗効果を期待したい。 ・2については、今後も想定される安全管理について鋭意情報共有に努めていただきたい。 	
	<項目：目標設定と自己評価の状況>		
	1	学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が具体的に設定されているか	3.3
	2	自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3.6
	3	外部アンケート等を実施し、自己評価を行う上での参考としているか	3.6
	評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価や保護者評価、学校関係者評価等の学校評価を学校側で重要視して目標設定をしている様子が伺える。 ・それぞれPDCAの形で、目標設定・評価や課題は把握されていると考えるが、改善の必要な課題を見ると家庭教育や生活習慣の確立など生涯学習・社会教育とリン 	

		クしている領域が多く見られる。このような課題を有効な改善策につなげるためには、学校教育がより社会教育の分野との連携や意識共有がされることが望ましい。	
	<項目：学校関係者評価の状況>		
	1	学校関係者評価が自己評価の結果を踏まえて実施されているか	3.6
	2	学校関係者評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3.4
	評価委員の意見	<p>・学校関係者評価で指摘を受けて「家庭学習の習慣」を定着させる取り組みを実施することができたことは、この制度の効果の重要性を感じる。</p> <p>・各学校とも学校関係者評価を踏まえ実施され、また改善に活用されているが、学校単独で改善できない意見に対しての課題解決にどう取り組んでいるのか。例えば、ボランティア協力に関して図書館との連携、学校支援地域本部事業活用など、また複式学級の掛け持ち解消が可能なかどうか。</p> <p>【改善方策】 地域の支援を学校に生かすために学社融合推進事業や学校支援ボランティアの活用を図っていますが、今後も、地域の教育力を活用した学校教育をめざします。また、小規模校の複式学級については課題がありますが、児童の実態に応じた複式授業の在り方について常に研究を深めています。複式学級での指導については、部分的にTTなどによる指導工夫は可能です。</p> <p>・家庭で教育または躡すべきもの、学校で教育または指導すべきものを仕分けして家庭、学校に周知できるように教育委員会で主導的立場を取ることはできないか。</p> <p>【改善方策】 家庭教育ハンドブックの活用をさらに図ってまいります。</p> <p>・前回は指摘したが、関係者評価と自己評価の乖離している点が、改善に活用される必要があると考えられる。自己評価の結果を踏まえた関係者評価は、評価にバイアスがかかることとなり、手法としては疑問が残る。有効な改善策の策定のためには双方の評価を同様の項目で同時期に行う必要があると考える。</p> <p>【改善方策】 自己評価は児童生徒及び保護者、教職員へのアンケートを基に行い、関係者評価は自己評価の結果について評価をしてもらうために実施しています。</p> <p>・各校が前向きに、熱心に取り組んでいる。</p>	
	<項目：教育課程等の状況>		
	1	学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか	3.2
	2	各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか、また指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか	3.5
	評価委員の意見	<p>・目標設定が細分化されることで教育内容までが細切れ化してしまうことは避けるべきで、各教科を横断的に見る総合的な視野やより多様性をもった問題意識を養うための計画立案されることが望ましい。</p> <p>【改善方策】 目標を具体化することは必要であり、教育内容も相互の関連性を重視した指導が重要であり、常に共通理解、共通認識の中で進めていきます。</p> <p>・指導計画の中に学校図書室などを利用した調べ学習や読書指導、情報リテラシーな</p>	

	<p>どの分野で司書教諭や図書館との連携などが考慮されることも重要と考える。</p> <p>【改善方策】 司書教諭の有効活用と図書館ボランティアとも連携を図ってまいります。</p> <p>・「学校の教育目標」については先生方それぞれに見解があるのかもしれないが、価値観の共有は怠ってほしくない。</p> <p>【改善方策】 学校運営並びに組織体制については、協働・共通理解に基づいて行われなければなりませんので、常に価値観の共有を図ってまいります。</p>	
<p><項目：授業の状況></p>		
1	<p>体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか</p>	3.3
2	<p>視聴覚教材や教育機器、コンピューターや情報通信ネットワーク、電子黒板などを効果的に活用した授業が行われているか</p>	3.0
評価委員の意見	<p>・児童生徒の興味・関心を生かした学習では、それを知っていればどんなことに役立つのかがわかれば、より有益な授業になると思う。</p> <p>【改善方策】 各学校の研究の視点としては取り組んでいますが、より分かる、楽しい、そして有益な授業になるように研究していきます。</p> <p>・電子黒板の活用については、学校訪問で授業を拝見したが、日常的な活用に取り組んでいるとは思えません。電子黒板の使い方について更なる研修が必要と思う。特に先生が黒板に問題を書いている時間が無駄で、その間生徒は暇にしているわけですし、タッチ一つで問題が映し出されれば、即生徒が答えを書き時間の節約になり授業時間がタイムオーバーにならずに済むと思う。</p> <p>【改善方策】 今後共、有効活用を図ることができるよう研修の場を設定していきます。</p> <p>・新学習指導要領の実施により、従来の正解を求める学力ではなく問題解決を引き出すための思考錯誤やコミュニケーションをとりながらの納得解を導く学力を求められていることを踏まえると授業の構成も変化していく必要があると考える。一方、そのような学力を支える基礎学力の強化も必要であり、教員が教材研究や研修を行う環境がより求められており、それらをバックアップすることが必要だといえる。</p> <p>【改善方策】 常にこのようなことを意識しながら研修を進めていきます。</p>	
<p><項目：特別支援教育の状況></p>		
1	<p>特別な支援を必要とする児童生徒について、個別の指導計画や個別の教育支援計画が適切に作成されているか</p>	3.5
評価委員の意見	<p>・支援員の配置やアドバイザーの巡回など適切な配置がなされている。また、通常学級での学習を行っていく過程で想定される問題などを考慮すると、支援担当の教員だけでなく、全教員や保護者を対象とした支援の内容や理解を深めてもらうための研修の機会などが必要だと思われる。</p> <p>・各校が前向きに、熱心に取り組んでいると感じている。</p>	
<p><項目：教職員の研修の状況></p>		
1	<p>授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施する</p>	3.6

	ことなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 実践が進み成果を上げていると思われる。今後とも効率的で効果の上がる取組を期待する。特に電子黒板の利用に関する研修に力を入れて頂きたいと思う。 【改善方策】 今後も市教研情報教育班とも連携し研修機会を提供します。 職員相互の研鑽を継続的に行うことは望ましいが、前述の通り改善の課題となっている対象項目や今後研修が必要となってくる領域には、今までの教職員同士だけの研究では解決されないものもあると考えられ、より異種・異分野のスキルに触れる研修も必要だと思われる。 改善するために新しい取り組みや工夫をすることが前提なので、その意欲を維持できるように先生方をフォローする体制づくり、取り組みから評価までの期間設定、見守る気持ちを持たなければならないと思う。 	
指導・管理の状況	<項目：生徒指導>	
	1 生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか	3.6
	2 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの外部人材が活用されているか	2.9
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの外部人材が活用されているかについての評価「2.9」は低い。もっと活用しやすい仕組みが必要かと思う。 【改善方策】 定例的活用による学習会や個々の相談では年々活用されてきてはいるが、今後も各学校と市教委が連携し、児童生徒及び保護者に活用について周知を図ります。 学校日程などから教育相談が計画的に行われていることが認められる。また、学校関係者以外の相談者として存在するカウンセラーやソーシャルワーカーを両輪と認知し、おおむねそのような環境が整いつつあるようにみえる。しかし、必要としながら相談できない、もしくは相談すべきなのに相談自体をしないという状況があることは、今後も課題として残っていくといえる。 相談業務はデリケートな問題だと感じている。外部人材の選定については各校と設置者の間でしっかりと合意形成をしなければならないと思う。 	
	<項目：児童生徒の人格的発達の状況>	
	1 相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる児童生徒を育成するための指導を行っているか	3.1
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 人格的発達の育成指導は、単発やイベント的に行う場合もあるが、日常の学級経営の中で適宜行う必要があるものともいえる。また、家庭教育などの領域とリンクするものでもあり、SSTなどの知識など定期的に教職員が研修していく課題の一つといえる。 児童生徒に個性があるように先生にも個性がある。双方が共感できるキーワードを探りつつ、ケースにあわせて柔軟な対応も必要である。 	
	<項目：保健管理の状況>	
	1 日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか	3.5
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 新型インフルエンザの感染など集団生活の中で発生する疾病の予防などもある一方、養護教諭には虐待やいじめの発見なども重要な役割となってきたため、今後も適切な実施が望まれる。 	

		・各校が前向きに、熱心に取り組んでいると感じている。	
	<項目：安全管理>		
	1	学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか	3.1
評価委員の意見		<ul style="list-style-type: none"> ・実態に即応できるマニュアルの作成や防災マニュアルの作成を徹底するよう指導の強化が重要と思う。 ・集団下校の方法の見直しが必要ではないかと思う。 <p>【改善方策】</p> <p>各種の災害内容に対応するため、各学校で規模等に応じて検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の事案によって適切な対処が必要となるため、マニュアル作成だけでなく定期的な運用の実施が望ましい。 ・一斉メールについてもどのような運用があるのか、日頃から保護者と情報共有をしておくことで、より有効な手段になると思われる。 ・改善の余地はあるかと思うが、過剰な対応はかえって不安をあおることになります。安全を確保するために児童生徒が取るべき行動を、実行できることからひとつひとつ丁寧に伝えて頂ければと思う。 	
	<項目：進路指導（キャリア教育）の状況>		
	1	児童生徒の将来の夢や希望を育み、学ぶことや働くことの意義など適切な勤労観や職業観を育てるための指導を行っているか	2.8
評価委員の意見		<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育についての認識不足を感じる。子どもの将来（進路）に関わる大切な教育であるので、指導を徹底する必要がある。また、評価「2.8」も低い。 <p>【改善方策】</p> <p>新学習指導要領に基づき、教育活動を通じた教育の観点から、今後も各学校においてキャリア教育の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「働くことの大切さを教えてほしい」と言うのが学校関係者の意見で目についたが、授業の中で職業についての夢や憧れを持たせる工夫と、それらを持っている子には具体的にアドバイスやサポートをお願いしたい。 <p>【改善方策】</p> <p>新学習指導要領に基づき、教育活動を通じた教育の観点から、今後も各学校においてキャリア教育の充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な職種への理解と同時に社会生活をしていく上での基本的な知識を得るという意味でのキャリア教育が実施されることが望ましい。この領域も学校教育のみで行うことは難しいといえる。また、富良野市内だけの職業体験だけでは範囲が限定的であり、今後は研修旅行などにそのような目的を持たせるといったことも考えていく必要があると思われる。 ・地域の状況や世界的な情勢とも関係する事案だけに、とても難しい問題だと思う。ただ、実体験から、指導する側が喜びや生きがいを感じていない限り、子どもたちはその枠を超えてはくれない。その意味において、富良野市は恵まれていると思う。これまで通り学校や先生方だけの問題と捉えず、地域全体を盛り上げる努力を自分自身もしなければと思う。 	
家庭・地域との連	<項目：学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況>		
	1	児童生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握し、適切に対応しているか	3.1

携協力の 状況	評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・参観日の授業について意見等を出せるようにあらかじめ周知しておいて、授業の後に投書箱等による回収をお願いしたい。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広く意見を聴くことができるように改善します。 ・地域に開かれた学校という姿勢は、浸透しつつあると思われる。 ・児童生徒に個性があるように、保護者にも先生にも個性がある。その三者に地域をプラスし、それぞれが共感できる価値観を探ることができれば良い。 					
	<p><項目：学校に関する情報提供></p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>学校だよりや学級だよりの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ホームページの活用をはじめ、広く地域住民等に学校に関する情報を提供するための取組を行っているか</td> <td>2.7</td> </tr> </table>		1	学校だよりや学級だよりの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか	3.5	2	ホームページの活用をはじめ、広く地域住民等に学校に関する情報を提供するための取組を行っているか
1	学校だよりや学級だよりの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか	3.5					
2	ホームページの活用をはじめ、広く地域住民等に学校に関する情報を提供するための取組を行っているか	2.7					
	評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校は、個人情報保護の観点から情報提供に限界を感じていると思われる。ここで、教育委員会としての方策を提供する必要を感じます。評価「2.7」も低い。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ活用等の評価は2.7ですが、情報の提供には、法の範囲内の提供のため限界がありますので、今後検討していきます。 ・前年より大分改善が進んだ学校もあると思う。せっかく努力しているのだからカウンターを付けて閲覧者数を把握できるようにしておくとお励みになると思う。また見てもらう努力も必要と思う。 ・1については、適宜適切に行われているといえる。また2については、他の自治体の学校の中にはより整備されたHPなども見受けられる。個人情報などに関わる内容などではなく、校長が日頃の学校生活や教育方針などを自分の言葉で語り、理解が深められるような内容なども一つの可能性といえる。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫改善していきます。 ・1は各校が前向きに、熱心に取り組んでいると感じている。 ・2はその目的と必要性をしっかりと判断しなければ、単なる負担になってしまいそうである。 					
	<p><項目：保護者・地域社会との連携の状況></p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>授業や教材の開発に地域の教育資源（人・物・自然など）を活用し、より良いものとする取組を行っているか</td> <td>3.5</td> </tr> </table>		1	授業や教材の開発に地域の教育資源（人・物・自然など）を活用し、より良いものとする取組を行っているか	3.5		
1	授業や教材の開発に地域の教育資源（人・物・自然など）を活用し、より良いものとする取組を行っているか	3.5					
	評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・富良野市の取り組みは、おおむね良好に実施・取り組みがされているといえる。富良野市には美術科教諭を配置している学校がなく、展覧会が行われている学校がないため、その領域での外部人材の取り組みは重要といえる。 ・各校が前向きに、熱心に取り組んでいると感じている。 					

評価基準 4：実践が進み成果を上げている 3：実践が進んでいる
2：実践につとめている 1：努力を要する

教育行政評価委員会の開催について

1、教育行政評価委員会

教育行政評価委員会は委員4名を委嘱し、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条第2項の規定及び教育行政評価委員会設置要綱に基づき、富良野市学校第三者評価を行うために、教育行政評価委員会を5回開催いたしました。

教育行政評価委員会では、教育委員会から提出した資料（教育委員会の活動状況及び事務事業点検・評価55事業）について、事務局側から説明をし、それに対する教育行政評価委員側からの質問・意見項目を基に意見交換をいたしました。

また、学校第三者評価を行うために、学校自己評価及び学校関係者評価の結果及び学校第三者評価項目に対する学校自己評価について説明をするとともに、富良野小学校・富良野東中学校の学校訪問を行い校長・教頭との意見交換、授業参観を行いました。さらに校長会会長・副会長、学校教育指導委員会委員長との意見交換を行いました。

1) 第1回会議 6月5日(火)開催

教育委員会事務事業点検・評価表の説明
教育委員会の活動点検・評価の説明

2) 第2回会議 6月28日(木)開催

事務事業点検・評価に対する質疑、意見交換
学校自己評価、学校関係者評価の概要説明
学校第三者評価項目自己評価の集約結果の説明

3) 第3回会議 7月10日(火)開催

学校訪問～富良野小学校、富良野東中学校、富良野学校給食センター

4) 第4回会議 8月7日(火)開催

学校訪問における感想・質疑、意見交換
校長会長、学校教育指導委員会委員長との意見交換
絵本の読み聞かせ体験

5) 第5回会議 8月20日(月)開催

学校第三者評価のまとめについて
事務事業点検・評価及び学校第三者評価報告書(案)に対する最終意見交換

2、点検・評価に基づいた意見

「教育委員会事務事業点検・評価」については、第5次富良野市総合計画前期基本計画第1章「基本目標1 時代を担う子どもたちをみんなで育むまちづくり」、第2章「基本目標2 やさしさと生きがいを実感できるまちづくり」の視点、並びに「平成23年度富良野市教育推進の重点」に基づき整理区分、点検評価としてまとめられており、各委員からは、平成23年度の事務事業については、客観的に見てとても良く執行されており、総体的に評価できるとの意見が出されていました。

「学校第三者評価」は、学校自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価項目の自己評価、学校訪問、校長会会長・学校教育指導委員会委員長との意見交換を基に、評価項目に対する各学校の取り組み状況に対し各委員の意見をまとめました。

1) 教育委員会の活動状況

近年、地方分権の進展とともに教育制度改革により、教育をめぐる社会環境は大きく変貌しつつあり、それに伴う問題も複雑多岐にわたっています。教育委員が常に教育環境の状況把握に努めるために活発な議論をし、富良野市の教育の基本理念を確認し共有することが大切です。

教育委員の学校訪問では、子どもたちや教職員と実際にふれあい、生の声を聴くことは大切なことであり、各学校の特徴や抱えている課題等を把握、対応することが期待されています。

なお、教育委員会議は透明性を重視し、市ホームページでも内容を公表しながらも、市民の目に見える活動とするために、教育行政評価委員と教育委員の意見交換会を開催することも一考と思われます。

2) 学校教育について

新学習指導要領の導入が、小学校では平成23年度から、中学校では平成24年度から全面実施されています。

教育委員会に課せられた最大の職務は、学校教育の充実にありますが、市内の小中学校では「富良野市学校教育中期計画」を学校教育の指針として教育活動計画等に適切に位置づけをし、毎年の検証・評価を経て教育活動を改善してきました。

今後、全体的な課題として、全ての児童生徒に学力の基本となる「読み・書き・計算」をしっかりと身につけさせ、学習意欲を高めながら子どもの個性を生かす教育を充実させ、確かな学力・人間性豊かな教育を推進し、「生きる力」を育む教育課程の編成、実施、評価、改善のより一層の計画的な推進が必要です。

そのために、平成23年度より地域の方々や校内外の教職員に対し、積極的

に授業公開を行い、地域に開かれた学校づくりを進める中で、教員の授業研究・改善を図り、「分かる、楽しい」授業に重点を置きながら教育方法等の改善に取り組んでいます。

また、中高学力向上プロジェクトを重視し、授業公開や研究公開での相互交流が着実に推進されていることは明るい兆しです。今後も中高の一層の連携を図る必要があります。

なお、特別支援教育に対する方針が確立していることは大変良いことであり、今後も保育所・幼稚園・小学校・中学校・高校等への引き継ぎや相談体制の充実及び保健医療福祉との連携を図る必要があります。

3) 社会教育について

社会教育及びスポーツの振興に関する推進は、個人の要求に応えることではなく、市民の必要課題に基づく学習内容に対応する企画立案や各種団体の育成であります。

社会教育に関する各種事業は社会教育中期計画並びに単年度社会教育推進計画に基づき推進されており、事業内容も「子ども未来づくりフォーラム」や「学社融合推進事業(学校支援ボランティア)」、「子どもスキー技術向上支援事業」、「読書活動推進」を始めとして高く評価するものです。

今後とも市民ニーズに適切に対応し、生涯学習の観点に立った事業及び施設運営を図る必要があります。特に、「子ども未来づくりフォーラム」は、内容の大幅な見直しを行っており、児童生徒の表現力・コミュニケーション能力向上を図る有効な場であることから引き続き内容の工夫を図る必要があります。

4) 学校第三者評価について

学校第三者評価は、単に学校の格付けをしたり、教諭を評価するためのものではなく、保護者や地域住民が学校と共に子どもたちを基本に考えることにより、より良い「開かれた学校」づくりを目指すものであります。

教職員及び学校関係者において学校関係者評価の目的、目指すべき成果を共通理解し、評価後は学校にフィードバックして、より良い「開かれた学校」づくりのために教育委員会としても教育施策の貴重な資料として活用する必要があります。

資料：1

富良野市教育行政評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条に基づき、富良野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する行政評価の透明性を確保するとともに、学校教育法（昭和22年法律第26号）第42条、第49条及び富良野市立学校管理規則（昭和56年教育委員会規則第2号）第6条の4の規定に基づき、富良野市立の小学校及び中学校の学校教育活動、学校運営の状況等の評価について、教育に関し学識を有する者の知見を活用するため、富良野市教育行政評価委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1)教育委員会が実施した事務事業の点検及び評価について、教育委員会に意見を述べること。
- (2)学校関係者評価について、教育委員会に意見を述べること。

(構成)

第3条 委員会は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育長が委嘱する4名をもって構成する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日の属する年度までとする。

(運営)

第5条 委員会には、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。
- 4 委員会は、審議のために必要があるときは、関係者の出席を求め、意見を聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、事務事業評価に関する事務を所管する課が処理する。

附 則

- 1 この要綱は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 最初の委員会は、第5条第3項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

附 則

- 1 この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

資料：2

教育行政評価委員名簿

委員長	天 日 守	社会教育委員長
副委員長	忍 穂 良 明	元市PTA連合会長
委員	品 田 靖 恵	図書館ボランティア
委員	瀬 川 謙 二 郎	ふらの演劇工房理事長

資料：3

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

〔昭和31年6月30日法律第162号〕

改正 平成19年6月27日法律98号(施行 平成20年4月1日)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

資料：4

平成23年度 富良野市教育行政執行方針

平成23年第1回富良野市議会定例会にあたり、教育行政に関する執行方針を申し上げます。

市議会をはじめ市民の皆様のご理解とご協力を頂き、関係部局・機関団体との連携を深め、地域に根ざした実効性のある教育施策を進めてまいりたいと存じます。

教育は人格の完成を目指し、個性を尊重しつつ、個人の能力を伸ばし、自立した人材を育成することであり、次代を担う子ども達にとって、自ら学び自ら考える力の育成、学力の基礎・基本の確実な定着と応用力・活用力の向上を図るとともに、他人を思いやる心、感動する心、命を大切に作る心、感謝の心、正義感や公正を重んずる心、さらには自己実現をめざした「生きる力」の育成が大切であります。

今日、少子高齢化の進行や核家族化、国際化が進展する中で、地球環境問題、エネルギー問題など社会情勢が急激に変化し続けており、教育を取り巻く環境にも大きな影響を与えております。こうした中、地域の教育力を高め、豊かな人間性を培うために、子ども達の学ぶ意欲や規範意識、道徳心、そして体力の向上など喫緊に対応することが重要であります。

このような時こそ、新しい時代を切り拓き積極果敢に築き上げていく気概を持った人材育成が強く求められております。

そのためには、『第5次富良野市総合計画』を基本とし、教育の原点である「知・徳・体」育の基礎となる食育教育の推進と調和のとれた児童生徒の着実な育成を基本に据え、「すべては子ども達のために」を合言葉に、それを支える学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割を果たし、相互に連携、協力しながら、子ども達の無限の可能性を伸ばす学校教育の充実に努めてまいります。

また、学校と地域との連携・協力体制をより一層構築し、地域全体で学校を支え子ども達を健やかに育むことをめざすために、学校支援ボランティア活動などを中心に積極的な学校支援の取り組みを推進してまいります。

さらに、市民一人ひとりが心身ともに健康で生きがいのある充実した人生を送ることができるように、その生涯にわたって、あらゆる機会や場所において学習することができ、その学んだ成果を適切に生かすことのできる環境づくりが必要であります。そうした生涯学習社会の構築をめざし、活力と潤いのある

地域社会を創造するための社会教育、芸術・文化、スポーツの充実並びに地域の活性化に重要な役割を果たす公民館・図書館・博物館などの教育活動を推進するとともに、社会教育を担う人材育成を図ってまいります。

学校教育について

学校教育につきましては、『富良野市学校教育中期計画』に基づき、「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」ことを基本理念に掲げ、全ての児童生徒が学力の基礎・基本となる「読み・書き・計算」をしっかりと身につけ、学習意欲を高め、主体的な学習態度を養い、個性を活かす教育を充実させ、確かな学力・人間性豊かな心を育む教育の推進に努めてまいります。

また、平成23年度から小学校、平成24年度から中学校でそれぞれ新学習指導要領が全面実施されることから、これまでの成果を検証し新たな環境に速やかに対応するために『富良野市学校教育中期計画』の一部見直しを行い、「グローバル社会に対応する国際理解教育」、「富良野の自然環境を活かした環境教育」の追加による学校教育の充実を図るとともに、中学校の必修科目である武道、ダンス、音楽（和楽器など）などの先行実施に向けた各学校の体制整備と併せて、サブアリーナの活用について調査を進めながら、円滑に移行できるよう推進してまいります。

さらに、少子化による児童生徒数の減少により、学校の配置や規模の適正化などが課題であることから、「富良野市立小中学校適正規模及び適正配置に関する指針」に基づき、集団活動を通しての社会性、協調性、自立性などを培う教育環境を整える観点と、地域における学校の役割など様々な角度から検討してまいります。

学力の向上につきましては、「全国学力・学習状況調査」の結果を詳細に把握・分析した上で、学校改善プランを策定し学習指導方法の工夫改善や学習環境づくりの推進、基礎・基本の徹底と学習意欲を高める教育の充実に努めるとともに、「地域に開かれた学校づくり」をめざすために、保護者や地域の方々に「研究授業」や「公開授業」を積極的に進めてまいります。

また、教育行政及び学校教育の現状と課題を検証・評価し、今後の改善と展望を提示することを目的とした第三者評価委員会を設置し、教育行政評価と学校評価を実施してまいります。

さらに、本年、鳥沼小学校・山部中学校を会場校に開催されます「第60回全国へき地教育研究大会 北海道大会」の支援をしてまいります。

体力の向上につきましては、児童生徒の体力や生活習慣、食習慣、運動習慣

などの状況を「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立ててまいります。

幼児教育につきましては、人間形成の基礎を培い義務教育につなげる重要な時期でありますので、保育所・幼稚園と小学校との連携により円滑な就学支援を図るとともに、児童の心の問題や生活習慣などについて一貫した教育の実践に努めながら、子育て支援や幼児教育の充実に向け私立幼稚園就園奨励補助、預かり保育奨励補助、障がい児教育補助により、就園機会の拡充と保護者負担の軽減を図ってまいります。

心の教育につきましては、基本的な判断や行動、規範意識、倫理観、他人を思いやる心など、豊かな心を育てる教育を推進してまいります。

さらに、子どもと親の相談員や学校教育アドバイザー、スクールカウンセラーを引き続き配置し、大きな成果と実績を上げています教育相談やカウンセリングのさらなる充実を図り、心の問題をケアできる体制づくりを行うとともに不登校の児童生徒に対しては、適応指導教室を継続して開設し、きめ細やかな対応に努めてまいります。

学校の生活指導におきましても、いじめ・不登校などの問題行動や児童虐待などの未然防止と早期発見・早期対応に努め、特にいじめは児童生徒の心と体に大きな影響を及ぼすばかりではなく、教育の根幹にかかわる重大な問題でありますので、引き続き「スクールソーシャルワーカー活用事業」を実施し、その根絶に向け日常の気付きや学校・家庭・地域社会などとの連携により取り組んでまいります。

さらに、富良野市少年育成協議会におきましても、少年の健全な育成を目的として、学校、PTA、関係機関・団体が連携して情報を共有し、適切な対応に努めてまいります。

危機管理につきましては、学校内外での安全な生活環境づくりに努めるとともに、スクールガード・リーダーの配置を引き続き行い、子ども達の安全を守る団体・組織などとの連携を図りながら、学校への不審者侵入防止、登下校時の安全対策に向けて「こども110番の家」の拡充や防犯教室の実施など学校における危機管理体制の徹底を図ってまいります。

特別支援教育につきましては、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校への引き継ぎや相談体制の充実及び保健医療福祉との連携、コーディネートを図るための特別支援教育アドバイザーを新たに配置し、支援体制の充実・強化に努めてまいります。

また、本年度は、特別支援教室41学級を設置し、扇山小学校に「ことばの教室」を継続開設するとともに、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育を推

進するためにティームティーチング教員(指導方法工夫改善加配教員など)や特別支援教育支援員を継続配置しながら、特別支援連携協議会を中核として、『富良野市特別支援教育マスタープラン』に基づき、専門家チームによる就学指導や就学相談などに向けて学校と関係機関との連携強化を図ってまいります。

道徳教育につきましては、富良野ゆかりの講師陣による「心に響く道徳教育」を推進するとともに、学校や児童生徒の実態に応じた指導計画の工夫と指導体制の充実を図り、道徳的实践を高める教育を進めてまいります。

環境教育につきましては、小学3・4年生において副読本を活用し、「地球を守るためにできることは何か」をテーマに、環境保全に向けての廃棄物処理や本市の自然環境など、体験学習を進めてまいります。

さらに、「富良野自然塾」を利用しながら、自然や環境に対する関心などを培う教育の充実を図るとともに、扇山小学校を中心に新エネルギーである太陽光発電や学校ビオトープ(希望の森)を有効な教材として活用し、環境を意識した環境教育の手引き書などを作成配布し、各学校において取り組みを進めてまいります。

キャリア教育につきましては、児童生徒一人ひとりの望ましい勤労観・職業観を身に付けることができるよう「富良野市キャリア教育推進会議」が中心となって探究活動を重視し、学校と受入事業所などとの連携を深めながら発達に応じた勤労体験学習や職業体験学習の充実に努めてまいります。

食育教育につきましては、「子どもたちのための食育ガイドライン」に基づき、栄養教諭による子どもの発達段階に応じた食育教育を、養護教諭と連携を図りながら実践するとともに、学校、家庭、地域社会と連携した「早寝・早起き・朝ごはん・家族そろって晩ごはん」運動を展開してまいります。

情報教育につきましては、携帯電話などインターネット上のトラブルが増加していることから、子ども達を守り安全、安心に利用するためにも情報モラル教育などの研修会を関係機関と連携しながら実施してまいります。

また、情報機器と施設整備につきましては、布礼別小中学校、布部小中学校、山部中学校の教育コンピュータの更新や校内LANの整備を図るとともに、ICT(情報通信技術)を活用した学習方法の工夫、充実に努めてまいります。

国際理解教育につきましては、小学校の外国語活動や中学校の英語指導の充実をめざす中で、日常会話や外国の文化、生活、習慣などを学ぶために外国語指導助手4名を小中学校に派遣し、英語力の向上に努めてまいります。

学校図書につきましては、学習に必要な図書を計画的に整備するとともに、

市立図書館との連携によるブックトラック事業やブックフェスティバル事業、団体貸出を活用した「朝の一斉読書」、学校支援ボランティアの協力による「読み聞かせ会」など、児童生徒の読書活動を推進してまいります。

健康教育につきましては、家庭や地域の関係機関と連携し計画的な性教育、薬物乱用防止教育の推進を図るとともに、校内における健康相談体制の充実を学校医と連携しながら取り組んでまいります。

高等学校教育につきましては、中・高の相互連携による教育振興のために「富良野市中高等学校経営連絡協議会」を継続するとともに、「中高学力向上プロジェクト」を設置し、学力の向上に努めてまいります。

また、平成25年度には道立富良野高等学校において単位制が導入されることから、本市の特徴を活かした魅力ある高校づくりを北海道教育委員会と連携して取り組んでまいります。

さらに、就学資金の活用や高等学校バス通学費補助を実施し、高校教育機会の拡充と均等、保護者負担の軽減に努めてまいります。

学校教育施設の整備につきましては、平成21年度に策定いたしました「富良野市立小中学校施設耐震化推進計画」に基づき、児童生徒の安全性、教育環境の向上に配慮した安全・安心な学校施設の整備を進めてまいります。

社会教育について

社会教育につきましては、市民の多様化、高度化する学習ニーズに対応するために、生涯各期にわたって自主的な学習活動が展開できるよう、「健やかな心身を育み 生涯学習社会の実現をめざす社会教育の推進」を基本目標とする『第6次社会教育中期計画』に基づき推進し、その成果を適切に生かすことのできる生涯学習社会をめざして、学習機会の提供や学習支援、団体育成などに努めてまいります。

家庭教育につきましては、教育の原点であります家庭の教育力を高めるために、親と子のふれあいや絆を深める事業などを引き続き開催してまいります。特に、乳幼児期からの家庭教育を推進するために、子育て支援センターなどの関係機関と連携し、家庭教育セミナーなどを開催するとともに、子どもの成長段階に合わせた「家庭教育ハンドブック」を作成、配布してまいります。

さらに、家庭教育の一環として、携帯電話やインターネットによる被害から子ども達を守るために、家庭でのルールづくりや危機管理の徹底などの啓発活動を継続してまいります。

少年教育につきましては、子ども会など各団体の活動支援に努めるとともに、公民館事業などを通して、様々な体験学習活動や世代間の交流活動を推進し、豊かな人間性やたくましく時代を生き抜く力を育成してまいります。

このため、放課後の子ども達の安全・安心な居場所づくりとして「放課後子ども教室」を山部地区と東山地区で引き続き開設するとともに、新たに布礼別地区においても開設してまいります。

また、地域の教育力を活性化し地域全体で学校を支援し、未来を担う子ども達を育てることができる環境づくりをめざし、「学社融合推進事業」に「学校支援地域本部事業」を統合して、より効果的に事業推進が図られるよう取り組んでまいります。

さらに、日常生活の中で体験したことや子どもの視点からまちづくりに対する意見などを発表し、思考力、判断力、表現力を養う事業として「少年の主張大会」や「子ども未来づくりフォーラム」を引き続き開催し、次代を担う子ども達の育成を図るとともに、少年の非行などの未然防止についても青少年補導センターや生徒指導連絡協議会などと連携し取り組んでまいります。

青年教育につきましては、地域に根ざす青年組織の実態把握と活性化に向けて学習機会や情報提供の充実に努めてまいります。

成人教育につきましては、市民のニーズに対応した学習機会の充実に始まり、市民の学習活動に対する支援や社会教育関係団体の育成を図ってまいります。

高齢者教育につきましては、健康で生きがいのある充実した生活を支援するための学習の場として、「ことぶき大学」を継続して開設し、魅力あるカリキュラムによる学習内容の充実や富良野校・山部校・東山校の合同学習の推進、豊富な知識や経験を生かした地域活動への参加、ボランティア活動、世代間交流などの社会参加活動を促進してまいります。

芸術文化の振興につきましては、郷土に根ざした個性と魅力ある市民文化の創造をめざし、市民総合文化祭などを通して交流や発表の場の提供、市民の芸術文化活動への参加促進など、自主的な文化活動を支援してまいります。

また、新たに「子どものための優れた舞台芸術体験事業」を推進するとともに、引き続き演劇活動や演劇鑑賞を通じて、児童生徒の自主性やコミュニケーション能力の育成と個性の創造を図ってまいります。

さらに、演劇文化の向上・発展に向けて、富良野演劇工場を核として、指定管理者との連携を図る中で、「ふらの演劇祭」や「舞台塾ふらの事業」などを継続してまいります。

文化財の保護につきましては、郷土の歴史や文化の発展の礎をなすものであり、市民共有の財産として保護、啓蒙・普及活動を推進し、市指定文化財の富

良野獅子舞をはじめ山部獅子舞、富良野弥栄太鼓などの郷土芸能の育成に努めてまいります。

また、本年度から古い歴史的建造物の文化財調査に着手し、その成果を郷土の歴史・文化を知る基礎資料として活用してまいります。

さらに、昨年度に引き続いて地域高規格道路富良野道路の工事に伴い実施される、縄文時代の遺跡である中五区1・2・3遺跡の発掘調査事業を支援してまいります。

生涯学習センターにつきましては、体験交流を基調に市民の高度化・多様化するニーズに対応する学習機会の充実を図ってまいります。

また、博物館では特別展・講座・講演会の開催などをはじめ、自然体験学習や観察会、学校への学習指導・協力などを通して、自然や環境への理解を深める取り組みを推進してまいります。

さらに、太陽の里においては、今後ともホテルが生息できる環境づくりに努めるとともに、自然環境教育の学習の場として活用を図ってまいります。

図書館につきましては、利用者のニーズに適応した図書及び図書資料の充実を図り、市民に役立つ幅広い情報収集・提供に努めてまいります。

子どもの読書推進につきましては、新たに乳幼児期からの家庭における読書活動の動機づけとして効果が期待できるブックスタートを実施するとともに、「こどもの図書館まつり」、「読書ボランティア研修会」、「子ども読書推進フォーラム」などを開催し、読書ボランティアの協力と連携による読書環境づくりを推進してまいります。

また、利用が増えている高齢者などへのサービスとして、新たに録音図書の導入や大活字本の整備・充実を図ってまいります。

さらに、市民参加による親しまれる図書館づくりをめざして、利用サークルやボランティア団体などと連携した「図書館まつり」の開催をはじめ、企画展・作品展・講演会など多彩な事業の実施による交流の場の創出を図ってまいります。

スポーツの推進について

スポーツの推進につきましては、心身ともに健康で充実した生活を営むためには、生涯にわたり豊かなスポーツライフを送ることが大切であり、NPO法人ふらの体育協会や地域体育振興会と連携して、『第6次社会教育中期計画』に基づき、自然や地域の特性を活かした生涯スポーツの推進を図り、身近にス

スポーツに親しむことができる環境づくりに努めてまいります。

市民のスポーツ活動普及につきましては、年間を通じてスポーツに親しみながら健康と体力づくりを図るために、気軽に取り組めるウォーキングや軽スポーツなどの推進と冬季スポーツの振興及び中心街活性化センター「ふらっと」の利用促進に取り組んでまいります。

スポーツ団体育成につきましては、競技力の向上及び軽スポーツの普及・促進を図るため、NPO法人ふらの体育協会や麓郷スポーツクラブなど各種スポーツ団体を支援するとともに、体育指導委員やスポーツ団体の協力を得て、スポーツセンターや中心街活性化センター事業への積極的な参加を促進し、併せて、学校施設開放事業の推進に努めてまいります。

競技スポーツと人材育成につきましては、NPO法人ふらの体育協会を中心として各種スポーツの競技力の向上を目指し、指導者養成やアスリートの育成・強化に努めるとともに、8年目になります「第24回全国高等学校選抜スキー大会」や「第49回北海道障がい者スポーツ大会」などを支援してまいります。

また、スポーツ国際交流事業として、新たに「少年野球国際交流事業」を実施してまいります。

スポーツ施設につきましては、多くの市民に親しまれ、軽スポーツから競技スポーツまで幅広く気軽に利用できるよう指定管理者と連携し、施設の整備・運営に努めてまいります。

また、富良野陸上競技場の改修、河川ラグビー場の改修、山部自然公園太陽の里パークゴルフ場園路の改修などを整備してまいります。

以上、平成23年度の教育行政執行方針について申し上げましたが、執行にあたりましては、より一層開かれた教育行政をめざして、教育行政に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価について公表し、効果的な教育行政を推進してまいりますので、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

資料：5

平成 23 年度 富良野市教育委員会 重点事項

～すべては子どもたちのために～

< 基本理念 >

「自立と共生の未来を拓く心豊かでたくましい人を育む」
(富良野市学校教育中期計画)

< 重点方針 >

全ての児童生徒に学力の基礎基本となる「読み・書き・計算」をしっかりと身につけさせ、学習意欲を高め、主体的な学習態度を養い、子どもの個性を生かす教育を充実し、確かな学力・人間性豊かな教育を推進し、「生きる力」を育む教育課程の編成、実施、評価の計画的実施。

また、新学習指導要領の全面実施に向けて、「わかる喜び、できる楽しさを実感できる授業を目指し」ながら、国際理解教育、情報教育、環境教育、食育教育等の充実を図るとともに、「富良野市子ども読書推進プラン」による読書活動を進める。

< 重点課題 >

- 1 第三者評価委員会（教育行政評価、学校評価）を適宜開催し、教育行政及び学校教育の現状と課題を検証・評価し、改善を図り、今後の展望を提示していくよう、第三者評価（外部評価）を進める。
- 2 本市の地域環境を生かした環境教育を充実する。
- 3 食は健康の源、食育は最善の予防医学との認識のもと、食育ガイドラインを基本として食育教育を推進する。
- 4 各学校施設の耐震化を進めるとともに、教育環境の整備を図る。

<重点項目>

1 特別支援教育について<知育>

- ・幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校等への引き継ぎや相談体制の充実及び保健医療福祉との連携、コーディネートを図るべく、特別支援教育アドバイザーを配置し、支援体制の充実を図る。
- ・一人ひとりのニーズに応じた教育を推進するために、退職教員外部人材活用事業等の活用による時間講師（チームティーチング教員）の配置や、富良野小学校、扇山小学校に各3名、東小学校に2名、山部小学校に1名、富良野東中学校1名の計10名の特別支援教育支援員を配置と併せて、特別支援教育アドバイザー1名を配置し支援の充実を図る。
- ・富良野市特別支援教育マスタープランに基づく、特別支援教育の改善と充実を積極的に推進する。
- ・引き続き、支援の必要な児童生徒のために学校と社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院と連携し、療育支援を行う。
- ・ふらの版個別の支援計画「(仮称)すくらむ」の導入を検討する。
こども発達支援協議会(こども未来課所管)を中心に沿線町村と連携し乳幼児期から社会人に至るまでの引き継ぎを目指す。

2 外国語活動について<知育>

- ・外国語指導助手(ALT)を小学校2名、中学校2名の計4名体制とするとともに、引き続き富良野市外国語活動推進委員会を設置し、推進体制や指導形態の工夫改善のため担任教諭とALTとの協議を進め、小中連携による外国語活動の推進体制を整備する。

3 全国学力・学習状況調査等について<知育>

- ・調査結果を詳細に把握・分析し、具体的な学習改善プランを明らかにし、学校評価と関連させながら、さらに学習改善の方策を具体化し、児童生徒の学力向上に取り組む。
- ・「地域に開かれた学校づくり」「学校経営に対する理解」「教員の授業研究・授業改善」を図ることを目的として、地域の方々や校内外の教職員に対する「授業公開」「研究授業」を積極的に進め、今後の授業や教育方法等の改善に取り組む(年2回程度の地域授業公開)。
- ・指導方法工夫改善加配等による習熟度別指導や少人数指導等の導入、退職教員外部人材活用事業による時間講師の配置や中学校指導方法工夫改善対応時間講師の配置によるチームティーチング等を導入し、児童生徒の学力向上に取り組む。

4 学校評価について<知育・情意・健康>

- ・第三者評価委員会を設置し、平成23年度から本格実施を行う。

5 危機管理について<情意>

- ・自然災害、事故、事件等の危機管理の徹底と、引き続き、スクールガード・リーダーを配置し、児童生徒の安全対策を図るとともに、富良野市少年育成協議会を中核に据え、各学校での組織的な危機管理体制の確立や子どもの虐待問題の解決等に取り組んでいく。
- ・早期対応と関係機関同士の情報の共有を行う。
- ・虐待問題については、こども未来課等との連携強化を図る。

6 いじめ・不登校対策について<情意>

- ・未然防止、早期発見、早期対応を基本とする。
- ・引き続き、学校教育アドバイザー、適応指導教室指導員及び子どもと親の相談員（市内小学校に臨床心理士を配置）、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置し、子どもたちの居場所づくりに取り組む。
スクールカウンセラー（臨床心理士）等の配置について
 - 1) 富良野東中学校、富良野西中学校、扇山小学校に、松田剛先生を配置
 - 2) 富良野小学校、東小学校に、森居あかね先生を配置
 - 3) 必要に応じて市内全校にて対応可能

7 道徳教育について<情意>

- ・学校や児童生徒の実態に応じた指導計画の工夫と指導体制の充実を図り、道徳的実践力と道徳的実践を高める指導の充実を図る。
- ・富良野ゆかりの講師陣による心に響く道徳教育を推進する。

8 心の教育について（演劇で培う心の教育）<情意>

- ・子どものための優れた舞台芸術体験事業を活用し、引き続き演劇活動や演劇鑑賞を通して、児童生徒の自主性やコミュニケーション能力の育成と個性の創出などを図る。

9 環境教育について<知育・情意・健康>

- ・「富良野自然塾」の活用など、本市における自然環境を生かし、様々な体験活動を通して、自然に対する豊かな感受性や生命を尊重する精神、環境に対する関心などを培う教育の充実を図る。
- ・太陽光発電施設の設置等を契機に、扇山小学校を中心に環境を意識した教育が推進できるよう環境教育の手引きを作成配布し、各学校における取り

組みに生かす。

10 食育について<健康>

- ・引き続き「子どもたちのための食育ガイドライン（指針）」に基づき、栄養教諭を確保するとともに、栄養教諭や養護教諭を中心とした、実践教育を推進し、学校給食の「食べ残しゼロ運動」や基本的な生活習慣である「早寝、早起き、朝ごはん、家族そろって晩ごはん運動」を学校教育と社会教育が連携し推進する。

11 キャリア教育について<知育・情意>

- ・富良野市キャリア教育推進会議が中心となり、学習指導要領改訂に伴う本市としてのキャリア教育の具体的な推進と充実を図る。
- ・各学校間の情報交流を積極的に進め、職業講話を取り入れる等内容の充実を図る。

12 市中高学校経営連絡協議会について<知育>

- ・進路指導と生徒指導を中心に進めている市中高学校経営連絡協議会において、学力向上に向けたプロジェクトを立ち上げ、魅力ある学校づくり等について検討を進める。
- ・市内中学校と高等学校との相互の授業参観交流と授業の指導の工夫改善と連携強化を図る。

13 携帯電話、インターネット被害から子どもたちを守る運動等について<情意>

- ・引き続き、学校、家庭、PTA、関係機関団体と連携を強化しながら、情報モラル教育の徹底を図る。
- ・保護者へのアプローチ（参観日、出前講座、セミナーなど）
- ・家族の約束7か条を推進する。

14 子ども未来づくりフォーラムについて<知育>

- ・子どもたちの表現力、思考力、コミュニケーション能力を高める。

15 放課後子ども教室の開設について<情意>

- ・子どもたちの安全・安心な居場所づくり事業として、山部地区、東山地区においては月曜日～金曜日に実施するほか、布礼別小学校において週2回実施する。地域の協力と学校間連携を図る。

16 アスリートの育成・強化について<健康>

- ・少年期からの競技スポーツの夢への挑戦と大きな舞台での試合経験を積み重ねるために「アスリート育成派遣費補助金」の創設

17 家庭教育について<情意>

- ・教育の原点は家庭教育であり、親と子のふれあいや絆を深める事業を推進しながら家庭教育に関する手引書を配布し、活用する。

18 学校支援地域本部事業について<知育・情意・健康>

- ・心豊かで健やかに育む環境づくりに地域の教育力を活かし、地域全体で学校教育を支援する「学校支援地域本部事業」を学社融合推進事業と統合し、推進する。

19 学校における読書の推進について<知育>

- ・教育委員会各課、各学校、学校支援読み聞かせボランティア等と連携した取り組みを推進する。
- ・小学校新1年生の保護者に対する図書館利用登録の推進
- ・学校図書館のデータベース化
- ・読書推進ボランティア講座の開催
- ・ブックトラック事業の推進
- ・ブックフェスティバルの実施
- ・団体貸出の推進
- ・図書館施設見学や職業体験の積極的な受け入れ（図書館利用教育の推進）等

20 新学習指導要領への対応について

- ・中学校の必修科目である武道、ダンス、音楽（和楽器など）等の実施に向けた各校の体制整備と併せてサブアリーナ（柔剣道場）の活用に向けた調査を進める。
- ・各学校における年間総授業時数の確保に向けた対応を図る。

21 学校施設の整備について

- ・各学校に配置されたパソコン、テレビ、電子黒板などを活用した情報教育を推進する。

22 富良野市歴史的建造物調査事業について

- ・明治末期から昭和初期の歴史的建造物を調査し、その実態を把握・研究す

ることによって、文化財としての基礎資料とする。道内研究者および沿線建築士会の協力を得て、調査の実施、報告書作成を行う。

- ・対象物件：渡部医院・やまどり（旧河村合名酒造酒蔵）・島田邸・旧山本澱粉工場、東京大学北海道演習林麓郷森林資料館（旧東大演習林麓郷作業所）・古民家など

以上、平成 23 年度の基本理念、重点方針、重点課題、重点項目等を記載しましたが、教育は大転換期の時、今こそ組織（市教委、学校）が一枚岩となり、保護者への情報発信、説明責任などを行いながら、子どもたちの未来を力強く切り拓くための実践教育活動の推進に向け取り組んでいきましょう。

「教育は未来への遺産づくり」